GO GLOBAL

東大から世界へ

東京大学 留学・国際交流ガイドブック 2017

海外留学・海外インターンシップ・国際ボランティア

THE UNIVERSITY OF TOKYO

Local × Global = ∞

世界を知るということ

2016年も、語学力も国際経験も十人十色の東大生が、一歩を踏み出し、海外へ飛び出しました。
それはある人にとっては小さな一歩であり、またある人にとっては大きな一歩だったことでしょう。
世界を知り、また世界を知ることで日本を意識し、
世界の友人からの刺激と友情を胸に日本に戻った東大生たち。
彼らは、これまでの環境で身につけた能力に、海外での経験というスパイスを加え、
一味も二味も違う学生に成長し、決意を新たにそれぞれの場所で活動を始めています。
みなさんも、小さくて大きな、世界への第一歩を踏み出してみませんか。

グローバルキャンパスで
知的リーダーへ成長を

東京大学理事・副学長　羽田 正

「グローバル化」という言葉は、すでに空気のようなキーワードになりつつありますが、その一方で、大学のグローバル化はまだ始まったばかり、これからもますます盛り上げていく必要を実感しています。本学は2014年度に、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されました。これをうけて、この事業の軸である世界トップ大学との戦略的パートナーシップを中心に、多様な価値観と背景を持った学生・研究者たちが、互いに切磋琢磨するグローバルキャンパスの実現に向け、様々な国際的学習・研究の機会を提供しています。

思えば私の学生時代には、留学と言えば多くの場合、自分ですべてをアレンジして大学を休学するしかなく、単位互換も読み替えもなかった時代で大変ハードルの高いものでした。今の学生には、留学等に関する相談窓口があり、大学からの集約された情報提供、充実した海外渡航保険や危機管理サービス等、また、協定大学への授業料不徴収を伴った交換留学や様々な奨学金制度など、手厚いサポートが提供されていて、羨ましく感じることもしばしばです。交換留学以外にも、本学が推奨・紹介する短期プログラム、海外インターンシップ、海外ボランティア等に参加すれば、自身の視野を広げスキルアップする良い経験となるでしょう。さらに、国内のキャンパスでも、少し気をつけて情報を集めると、世界中から集う学生との交流の機会が数多く見つかるでしょう。これは世界の優秀な人材が集う本学ならではの特典です。

海外留学を決めた学生の皆さんにお願いが三つあります。一つ目に、留学中は皆さんが東京大学の顔になることに誇りを持って勉学に励んでいただきたいこと、次に、留学先で本学を含め日本への留学を希望する学生に出会ったら是非彼らを支援していただきたいこと、最後に、帰国後はぜひ皆さんの経験を学内外でシェアし友人や後に続く人たちへの応援をお願いしたいことです。多様な価値観の中で、人とのつながりを大切にして善意の連鎖を産み出してゆくことも、グローバル化の進むこれからの世界に生きる皆さんの大切な素養の一つと信じるからです。

皆さんが、本学が提供するあらゆる機会を有効に活用し、「世界の多様な人々と共に生き、共に働く力を持った」（東京大学ビジョン2020より）知的リーダーへと成長されることを心から期待します。

CONTENTS

Ⅰ 東京大学交換留学協定校一覧 …… p.4

Ⅱ 留学・国際交流プログラムの紹介 …… p.8

Ⅱ-1 留学・国際交流プログラムの紹介
—国際本部担当プログラム—

1. 全学交換留学&体験記 …… p.10
「全学交換留学とは?」
東京大学が学生交流覚書を締結している海外の大学（協定校）に1学期～1年の間留学するプログラムです。東京大学の授業料を納めることで、留学先での授業料は不要となります。大学全体で実施する交換留学を「全学交換留学」と呼びます。

2. 長期派遣プログラム（UC、嶺南）&体験記 …… p.16
「長期派遣プログラムとは?」
交換留学ではない枠組みで1学期～1年の間留学するプログラムです。留学先の大学によって授業料等を支払う必要があります。派遣先大学によっては奨学金を支給してもらえる大学もあります。

3. 短期派遣プログラム（サマー&ウインタープログラムなど）&体験記 …… p.18
「短期派遣プログラムとは?」
東京大学が海外大学と連携して東大生のためにつくったプログラム（夏と冬）に、東京大学からの奨学金付きで参加する学生を募集します。（奨学金の受給には一定の条件を満たす必要があります。）

4. 個人応募プログラム …… p.22

Ⅱ-2 留学・国際交流プログラムの紹介
—その他の留学・国際交流プログラム—

5. GLP—GEfIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラム …… p.23

6. 本部学生支援課　体験活動プログラム・海外企業体験活動 …… p.24

7. 各学部・研究科の取り組み …… p.26

8. 学内でできる国際体験 …… p.28

9. 学外の海外インターンシップ、ボランティア等 …… p.30

10. 卒業後の大学院留学 …… p.32

Ⅲ 留学の計画と準備をする

11. 留学の計画と準備、情報収集 …… p.34
留学にかかる費用 …… p.36
語学検定試験の受験 …… p.37
留学等における学籍、単位認定など …… p.38

12. 海外留学等奨学金 …… p.40
特集コラム:
「Go Globalにチャレンジする東大生に社会が期待しています!」 …… p.42

13. 安全と危機管理 …… p.44

14. 留学と就職活動 …… p.45

15. よくある質問 …… p.46

16. 東京大学の留学・国際交流関係部署 …… p.48

Ⅰ 東京大学交換留学協定校一覧

「全学・部局別」

※2016年12月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載している。ただし、覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があることや掲載されていても当該年度に交換留学を実施していない場合もあるため注意すること。
※担当部局ごとに取扱いが異なるため、詳細は担当部局に確認すること。

※（M）は修士のみ、（D）は博士のみ対象

国際本部担当（全学交換留学）

国・地域	協定校	対象
台湾	国立交通大学	学部/院
台湾	国立台湾大学	学部/院
中国	上海交通大学	学部/院（M）
中国	清華大学	学部/院
中国	南開大学	学部/院（M）
中国	南京大学	学部/院
中国	復旦大学	学部
中国	北京大学	学部/院
香港	香港大学	学部/院
インドネシア	ガジャマダ大学	学部/院（M）
韓国	高麗大学	学部/院（M）
韓国	ソウル大学	学部/院
韓国	浦項工科大学校	学部/院
韓国	延世大学	学部/院
マレーシア	マラヤ大学	学部/院（M）
フィリピン	フィリピン大学	学部/院（M）
シンガポール	シンガポール国立大学	学部
タイ	チュラロンコン大学	学部/院
ブラジル	サンパウロ大学	学部/院
チリ	チリ大学	学部/院
チリ	チリ・カトリック大学	学部/院
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	学部/院
カナダ	トロント大学	学部/院
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院
カナダ	マギル大学	学部
アメリカ	イェール大学 Fox International Fellowship Program	院
アメリカ	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	学部
アメリカ	ジョンズ・ホプキンス大学	学部
アメリカ	スウァスモアカレッジ	学部
アメリカ	プリンストン大学	学部/院
アメリカ	ワシントン大学	学部/院
オーストラリア	アデレード大学	学部/院
オーストラリア	オーストラリア国立大学	学部
オーストラリア	クィーンズランド大学	学部/院（M）
オーストラリア	シドニー大学	学部/院

国・地域	協定校	対象
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	学部/院
オーストラリア	メルボルン大学	学部/院
オーストラリア	モナシュ大学	学部/院（M）
ニュージーランド	オークランド大学	学部/院（M）
ニュージーランド	オタゴ大学	学部/院
デンマーク	コペンハーゲン大学	学部/院（M）
フィンランド	ヘルシンキ大学	学部/院（M）
フランス	エコール・ポリテクニーク	学部/院（M）
フランス	グルノーブル・アルプ大学	学部/院
フランス	EHESS（社会科学高等研究院）	院
フランス	ストラスブール大学	学部/院
フランス	パリ政治学院	学部/院（M）
ドイツ	ケルン大学	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学	学部/院
アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	学部/院
アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	学部/院
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ	学部/院
オランダ	フローニンゲン大学	学部/院（M）
オランダ	ライデン大学	学部/院（M）
ロシア	サンクトペテルブルク大学	学部/院
スウェーデン	ウプサラ大学	学部/院（M）
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	学部/院
スウェーデン	ストックホルム大学	学部/院
スウェーデン	ルンド大学	学部/院（M）
スイス	ジュネーヴ大学	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ	学部/院
英国	ウォーリック大学	学部
英国	エクセター大学	学部/院
英国	サウサンプトン大学	学部
英国	シェフィールド大学	学部/院
英国	ダラム大学	学部/院
英国	ロンドン大学東洋アフリカ学院	学部/院（M）
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	学部/院（M）

各部局で担当するもの

国・地域	協定校	対象
法学政治学研究科・法学部		
中国	北京大学法学院	院
中国	北京大学国際関係学院	学部/院
韓国	ソウル大学校法科大学院	院
医学系研究科・医学部		
台湾	国立台湾大学医学部	学部
台湾	台北医学大学医学部	学部
アメリカ	ジョンズホプキンス大学医学部	学部/院
アメリカ	ペンシルバニア大学医学部	学部/院
アメリカ	ミシガン大学医学部	学部/院
アメリカ	シカゴ大学医学部	学部/院
アメリカ	コーネル大学医学部	院
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学医学部	学部
スウェーデン	イエテボリ大学	学部/院
工学系研究科・工学部		
中国	北京航空航天大学電子情報工程学院航空科学与工程学院　※新領域と担当	学部/院
中国	浙江大学	学部/院
中国	大連理工大学	学部/院
中国	同済大学院　※新領域と担当	学部/院
中国	北京交通大学	学部/院
中国	福州大学化学学院	学部/院
香港	香港理工大学建設・環境学部	学部/院
インド	インド工科大学マドラス校	学部/院
インド	インド工科大学ハイデラバード校	学部/院
インド	インド経営大学院バンガロール校	院
インド	インド工科大学カラグプール校	学部/院
インドネシア	インドネシア大学公衆衛生学部［UEHAS］	学部/院
インドネシア	バンドン工科大学［UEHAS］	学部/院
韓国	ソウル大学校工科大学	学部/院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学　建築・都市計画学院 清華大学　建築学院［AMU］　※新領域と担当	院(M)
タイ	アジア工科大学院	院
タイ	チュラロンコン大学工学部［UEHAS］	学部/院
タイ	タマサート大学国際工学部［SIIT］	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校理科大学	学部/院
アラブ首長国連邦	マスダール科学技術大学	学部/院
トルコ	中東工科大学工学部	学部/院
トルコ	イスタンブル工科大学理工学部	学部/院
アメリカ	マサチューセッツ工科大学　※対象学科限定	学部
オーストラリア	南オーストラリア大学情報科学技術工学環境学部	院
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	学部/院
オーストラリア	クイーンズランド工科大学理工学部	学部/院
ニュージーランド	カンタベリー大学工学部	学部/院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
オーストリア	グラーツ工科大学	学部/院

国・地域	協定校	対象
デンマーク	デンマーク工科大学	学部/院
フィンランド	アールト大学（旧ヘルシンキ工科大学）	学部/院
フランス	ピエール・エ・マリー・キュリー大学（パリ第6大学）工学部	学部/院
フランス	セントラルスーブレック（エコール・セントラル・パリ）	学部/院
フランス	エコール・デ・ミン・ド・ナント（Ecole des Mines de Nantes）	学部/院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校	学部/院
フランス	エコール・ミン・パリ	学部/院
フランス	エコール・デ・ポン・パリテク	学部/院
フランス	航空宇宙高等学院［ISAE］	学部/院
フランス	国立民間航空大学校［ENAC］	学部/院
フランス	エコール・セントラル・リヨン	学部/院
ドイツ	シュツットガルト大学	学部/院
ドイツ	カールスルーエ大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン工科大学	学部/院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学	学部/院
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルグ工学部	学部/院
ドイツ	アーヘン大学　※理学系と担当	学部/院
イタリア	トリノ工科大学※情報理工と担当	学部/院
イタリア	ミラノ工科大学	学部/院
イタリア	聖アンナ大学院ロボティックス研究所［GSDM］	学部/院
オランダ	デルフト工科大学機械・海洋・マテリアル工学部	学部/院
オランダ	トエンテ大学	学部/院
ノルウェー	ノルウェー工科自然科学大学	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学マネージメントスクール	学部/院
スペイン	マドリッド工科大学建築学部	学部/院
スペイン	バレンシア工科大学	学部/院
スウェーデン	チャルマーズ工科大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学	院(M)
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部　※情報理工と担当	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学［GME］	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学ロ-ザンヌ［EPFL］	学部/院
スイス	チューリッヒ大学理学部・経済学部 ※情報理工と担当	院
EU	"ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、サンリュック大学、リスボン工科大学、シントルーカス大学"［AUSMIP］　※新領域と担当	学部/院（M）
人文社会系研究科・文学部		
中国	山東大学儒学高等研究院・韓国研究中心	学部/院
中国	北京大学歴史学系　※総合文化と担当	院
香港	香港中文大学文学院	学部/院
インド	デリー大学	院
韓国	ソウル大学校人文大学	院
韓国	釜山大学校人文大学	院
イラン	テヘラン大学	院
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール	院
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール（リヨン校）	院

次ページへ続く

国・地域	協定校	対象
ドイツ	ベルリン自由大学（歴史文化学部、他） ※総合文化と担当	学部/院
イタリア	ピサ高等師範学校	院
イタリア	フィレンツェ大学	院
理学系研究科・理学部		
アメリカ	カリフォルニア大学	学部
韓国	ソウル大学校自然科学大学	院
スウェーデン	ルレオー工科大学 Department of Computer Science, Electrical and Space Engineering	学部/院
チェコ	南ボヘミア大学水産・水系保護研究院	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学　※工学系と担当	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学	学部/院
ロシア	ロモノーソフ記念モスクワ国立大学	学部/院
農学生命科学研究科・農学部		
台湾	国立台湾海洋大学	学部/院
台湾	国立中興大学獣医学院	学部/院
台湾	台北医学大学公共衛生栄養学部	学部/院
台湾	国立屏東大学獣医学院	学部/院
台湾	台湾大学生物資源農学院	学部/院
中国	四川農業大学	学部/院
中国	中国農業大学	学部/院
中国	東北林業大学	院
中国	南京農業大学	学部/院
中国	南京林業大学	院
中国	北京林業大学	学部/院
中国	西南大学	学部/院
中国	中国科学院大学資源環境学院	学部/院
中国	東北師範大学地理科学学院	学部/院
中国	海南大学園芸園林学院	学部/院
中国	浙江農林大学	学部/院
インド	タミルナードゥ農業大学	学部/院
インドネシア	ボゴール農科大学	学部/院
インドネシア	ムラワルマン大学	学部/院
インドネシア	ランプン大学農学部	学部/院
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学	学部/院
韓国	ソウル大学校獣医科大学	学部/院
韓国	釜慶大学校水産科学大学	学部/院
韓国	釜慶大学校環境海洋大学	学部/院
韓国	建国大学校獣医学部	学部/院
モンゴル	モンゴル国立農業大学	学部/院
スリランカ	ルフナ大学	学部/院
タイ	カセサート大学獣医学部・農学部・林学部	学部/院
タイ	コンケン大学農学部	学部/院
タイ	チェンマイ大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国立農業大学	学部/院
ベトナム	カントー大学	学部/院
フィンランド	アールト大学（旧:ヘルシンキ工科大学）	院
フランス	アグロパリテック（旧:パリーグリニョン国立農学院）	院

国・地域	協定校	対象
ドイツ	カールスルーエ工科大学	学部/院
ドイツ	ボン大学開発研究センター	学部/院
ポーランド	クラクフ農科大学	学部/院
ポーランド	ワーミヤ・マズリー大学	学部/院
スウェーデン	スウェーデン農科大学	学部/院
英国	エジンバラ大学獣医校	学部/院
経済学研究科・経済学部		
フランス	HEC経営学院［HEC Paris］	学部/院
ドイツ	フランクフルト大学	学部/院
スウェーデン	ストックホルムスクール・オブ・エコノミクス	学部/院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス	院（D）
総合文化研究科・教養学部		
台湾	国立政治大学歴史学系	院
台湾	国立政治大学台湾史研究科	院
台湾	国立交通大学社会文化研究所	院
中国	華東師範大学思勉人文高等研究院	院
中国	北京大学歴史学系　※人文社会系と担当	院
中国	北京大学元培学院 （PKU-UTokyo キャンパスアジアプロジェクト）	学部
韓国	ソウル大学校自由専攻学部 （SNU-UTokyoキャンパスアジアプロジェクト）	学部
韓国	韓国外国語大学校東洋語大学・日本語大学	学部/院
シンガポール	シンガポール国立大学理学部、人文社会科学部	学部
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校付属人文社会科学大学	学部/院
アメリカ	ニューヨーク大学大学院総合文化研究科	院
フランス	パリ第7・ディドロ大学	学部/院
フランス	パリ第8大学　※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン・フンボルト大学	学部/院
ドイツ	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学（歴史文化学部、他） ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ユゥストゥス・リービッヒ大学ギーセン社会科学・文化学研究科、メディア論研究センター	学部/院
ドイツ	ハンリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ人文学部	学部/院
スペイン	セビリア大学哲学部	学部/院
ロシア	ロシア国立人文大学	学部/院
教育学研究科・教育学部		
スウェーデン	ストックホルム大学教育学部	学部/院
薬学系研究科・薬学部		
中国	瀋陽薬科大学	院
アメリカ	テキサス大学M.D.アンダーソンがんセンター	院
ドイツ	ボン大学リサーチトレーニンググループ1873	院
スウェーデン	イエテボリ大学S.A.アカデミー	院
数理科学研究科		
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュールリヨン数学科	院
ロシア	国立研究大学高等経済学院［HSE］	院

国・地域	協定校	対象
新領域創成科学研究科		
中国	同済大学院　※工学系と担当	院
中国	北京航空航天大学電子情報工程学院航空科学与工程学院　※工学系と担当	院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学　建築・都市計画学院 清華大学　建築学院　※工学系と担当	院（M）
韓国	韓国科学技術院［KAIST］工学研究科	院
タイ	カセサート大学理学部	院
ブラジル	カンピナス大学	院
ブラジル	ペルナンブコ連邦大学	院
ブラジル	リオデジャネイロ連邦大学	院
ブラジル	サンタカタリーナ連邦大学	院
ケニア	ナイロビ大学	院
ナイジェリア	イバダン大学	院
南アフリカ共和国	ケープタウン大学工学・構築建築部	院
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校	院
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュールリヨン	院
フランス	エコール・セントラル・ドゥ・ナント校	院
フランス	ジャンモネ大学	院
フランス	クロード・ベルナール・リヨン第一大学	院
ドイツ	ヴュルツブルグ大学生命科学研究科	院
英国	インペリアルカレッジロンドン工学研究科化学工学専攻	院
UAE	マスダール科学技術大学	院
EU	“ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン工科大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学”［AUSMIP］　※工学系と担当	院（M）
その他	“シントルーカス大学建築及び都市計画学部、フランス国立パリ建築大学ラビレット校、リスボン工科大学建築学部、ミュンヘン工科大学建築学部Building Realization & Informatics講座、ソフィア建築・土木・測地学大学”［AUSMIP+］　※工学系と担当	院（D）
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所	院
情報理工学系研究科		
オーストリア	ウィーン工科大学［VUT］	院
デンマーク	デンマーク工科大学［DTU］	院
フィンランド	アールト大学（旧ヘルシンキ工科大学）	院
フランス	エコール・スューペリュール EA［ESIEA］	院
フランス	セントラルスーブレック（エコール・セントラル・パリ）	院
フランス	エコール・デ・ミン・ド・ナント（École des Mines de Nantes）	院
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール・カシャン （ENSC :カシャン高等師範学校）	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校［INSA Lyon］	院
ドイツ	ミュンヘン工科大学［TUM］	院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学［TUD］	院
イタリア	トリノ工科大学　※工学系と担当	院
ノルウェー	ノルウェー工科自然科学大学［NTNU］	院
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部　※工学系と担当	院

国・地域	協定校	対象
スイス	チューリッヒ大学自然科学部・経済学部［UZH］ ※工学系と担当	院
EU	“ピエール・マリー・キュリー大学（フランス）、アールト大学（フィンランド）、エトヴェシュ・ロラーンド大学（ハンガリー）、ベルリン工科大学（ドイツ）、カルロス3世・マドリード大学（スペイン）、トレント大学（イタリア）”（Erasmus Mundus Programme）	院（D）
情報学環・学際情報学府		
韓国	ソウル大学校社会科学大学言論情報学科	院
公共政策学連携研究部・教育部		
中国	北京大学　国際関係学院［PKU-SIS］	院
韓国	ソウル大学校　国際大学院［SNU-GSIS］	院
シンガポール	シンガポール国立大学リー・クァンユー公共政策大学院［LKY-SPP］	院
ブラジル	ジェトゥリオヴァルガスビジネススクール［FGV］	院
アメリカ	コロンビア大学国際公共政策大学院［SIPA］	院
アメリカ	カリフォルニア大学サンディエゴ校グローバル政策＆ストラテジー研究大学院	院
オーストラリア	オーストラリア国立大学	院
フランス	パリ政治学院［Sciences Po.］	院
フランス	HEC経営学院［HEC Paris］	院
ドイツ	ヘルティー・スクール・オブ・ガバナンス［HSoG］	院
ドイツ	ハイデルベルク大学 The Graduate Programme for Transcultural Studies［GPTS］	院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス	院
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所	院

Ⅱ
留学・国際交流プログラムの紹介

留学以外にも海外インターンシップやボランティア（p.30）、卒業後の海外大学院留学（p.32）、
さらには学内でもできる国際体験（p.28）など、様々な国際交流に関わる方法があります。
本章では各プログラムの詳細を紹介しますので、自分に合ったプログラムを探してみましょう!!

海外留学をしよう!

個人による直接応募

（p.22）

東京大学での公募

各所属部局・研究科担当のプログラム

- リベラルアーツプログラム（p.26）
- 国際研修（p.27）
- 部局間交換留学

など

本部担当のプログラム

- 全学交換留学（p.10）
- 短期派遣プログラム（p.18）
- 体験活動プログラム（p.24）

など

Ⅱ-1 国際本部担当プログラム

1. 全学交換留学&体験記

全学交換留学とは

交換留学とは、その名の通り、東京大学と東京大学の協定校（東京大学が学生交流覚書を締結している海外の大学）が1学期～1年の間、学生を交換する留学プログラムです。（英語では一般的に"Student Exchange"と言います。）東京大学が授業料を徴収せずに協定校の学生を受け入れる代わりに、東京大学の学生は東京大学に授業料を納めれば、留学先での授業料は支払わずに、協定校で科目を履修したり、研究指導を受けたりすることができます。この交換留学を大学全体で実施するのが「全学交換留学」です。

交換留学のメリット

①東京大学の協定校への留学だから安心

→東京大学の協定校は評価の高い教育機関です。事前に多くの情報が得られ、現地でのサポート体制も充実しております。

②留学先の協定校では授業料の支払いが不要

→留学先の授業料が不要になる代わりに、留学期間中の身分は「休学」ではなく「留学」となり、東京大学の授業料は納める必要があります。（大学院生の場合、その活動の実態により「留学」又は「研究指導の委託」の手続きをとることになります。）

③協定校では交換留学生として優遇される

→協定校の交換留学生という特別な立場で留学するので、宿舎を優先的に確保してもらえるなど、特段の配慮をしてもらえるケースが多くなっています。

④協定校で取得した単位を東京大学の単位として認定できる可能性がある

→認定の基準は、部局により異なるため、所属部局や修得した科目によっては認定されない場合もありますので、留学時の所属部局の担当部署に事前に相談する必要があります。（→38ページ参照）

⑤原則、派遣学生全員に奨学金給付（返済不要）

→東京大学の全学交換留学では、原則、派遣学生全員に返済不要の奨学金を給付いたします。支給額について年度や地域によって異なりますが、月5万～10万円支給されます。また、東京大学や民間財団などの奨学金に応募することもできます。（→40ページ参照）

留学時期

- 1学期間あるいは1年間（留学先の協定校の学年暦（Academic Year）に基づく）
- 海外の大学は一般的に、1学期目:秋学期（8-10月開始、12月終了）、2学期目:春学期（1-2月開始、4-5月終了）の2学期制のところが多くなっています。（例外あり）
  例えば、2017年の秋学期（1学期目）～2018年の春学期（2学期目）という海外大学の1学年（Academic Year）を2017-2018年期（AY2017-2018）と呼びます。
- 1年間の留学を希望する場合は、原則として秋学期（8-10月開始）からの1年間となりますが、春学期が学年暦の1学期目となる大学については、春学期開始の1年間の留学として応募することが可能です。

主な資格・条件（一例）

- 留学期間を通じて東京大学の正規課程に在学する者（留学期間内に東京大学を卒業・修了する者、留学期間内に東京大学の学部から大学院に進学する者は対象外）
- 協定校が定める交換留学生の資格・条件を有すること。

応募方法

募集要項を熟読の上、所属する部局の担当部署に必要書類（主な書類:申請書・語学力の証明書など）を提出

※英語能力の証明書としては、受験日から2年以内のTOEFL iBTまたはIELTS（アカデミック・モジュール）のみ受け付けます。

選考方法

①学内選考（書面・面接審査）

東京大学本部において、書面・面接審査により学内選考を行います。審査では、学業成績・語学能力・申請書の記述内容等が考慮されます。

②協定校での審査（書面審査）

学内選考を通過した学生は協定校が定める申請書類を改めて作成し、その書類をもって東京大学が留学先の協定校へ推薦し、協定校での審査が行われます。協定校での審査を通過すると、留学決定となります。

募集時期

①秋募集【7～11月頃】

→翌年の秋季（8月～10月）留学開始分・翌々年の春季（1月～4月）留学開始分を募集

②春募集【①の翌年の4月～6月頃】

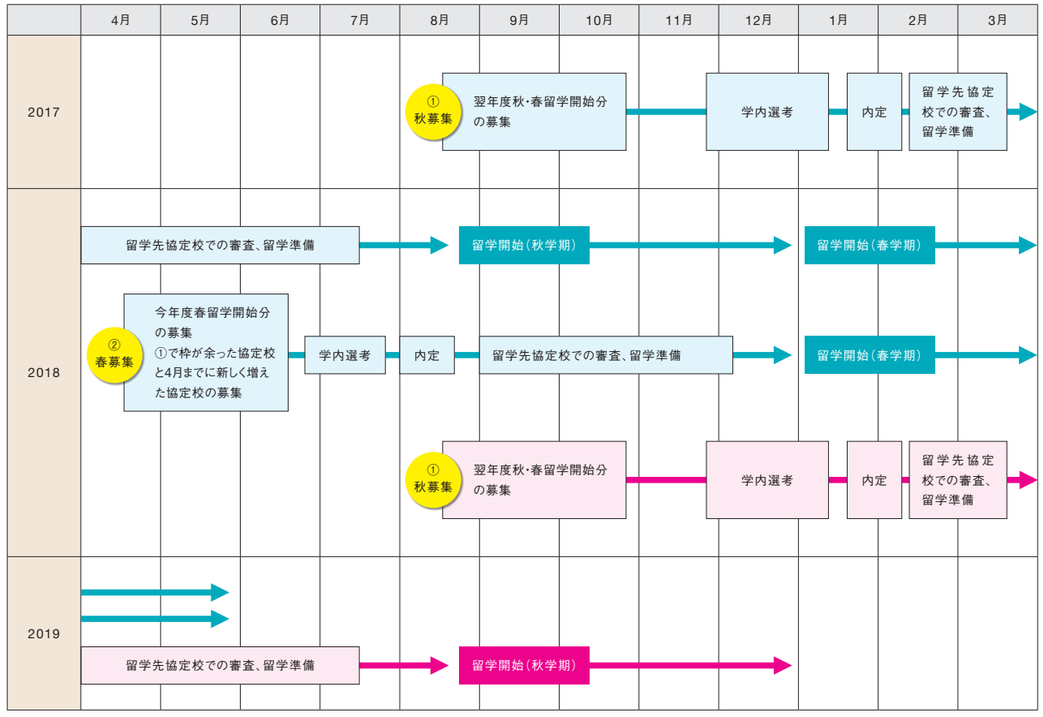
→翌年の春季（1月～4月）留学開始分を募集

※前年度の①の募集で余った派遣枠、及び春募集までに加わった新規協定校の募集

※本ページの情報は、2017年4月現在の情報です。変更される場合がありますので、詳細は最新の募集要項を確認してください。

全学交換留学募集サイクル（2018-2019）

※2017年4月現在の予定であり、変更される場合があります。このスケジュールは全学交換留学のものであり、部局間の交換留学については、部局ごとに異なります。



全学交換留学（国際本部担当）実績表〈協定校別〉

（2017年1月現在）

申請者:144名　学内内定者:106名

国・地域	協定校 ※プリンストン大学は学部と院で分けて表記	2016-2017 最大募集人数	2016-2017年期（1回目募集） 申請者数 第一希望	第二希望	第三希望	派遣者数	2016-2017年期（1回目募集-追加募集） 申請者数 第一希望	第二希望	第三希望	派遣者数	2016-2017年期（2回目募集-春期留学開始分） 申請者数 第一希望	第二希望	第三希望	派遣者数	2017-2018 最大募集人数	2017-2018年期（1回目募集） 申請者数 第一希望	第二希望	第三希望	派遣者数
台湾	国立交通大学	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
	国立台湾大学（NTU）	20	3	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	1	20	2	1	3	未定
中国	上海交通大学	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0
	清華大学	10	0	5	1	1	1	0	0	1	1	2	0	2	6	2	3	0	未定
	南開大学	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
	南京大学　New!!	0													4	0	0	0	0
	復旦大学　New!!	0													4	0	1	1	未定
	北京大学	14	4	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	1	10	4	1	2	未定
香港	香港大学	6	4	0	2	3	募集なし				募集なし				6	1	4	1	未定
インドネシア	ガジャマダ大学	6	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0
韓国	高麗大学校	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	1	0	0	未定
	ソウル大学校	4	0	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	6	1	0	0	未定
	浦項工科大学校（POSTECH）	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	延世大学校	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	未定
マレーシア	マラヤ大学	2	0	0	0	0	1	2	0	1	募集なし				5	0	0	0	0
フィリピン	フィリピン大学	6	1	0	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	6	1	0	0	未定
シンガポール	シンガポール国立大学（NUS）	6	5	1	3	2	募集なし				3	0	0	1	10	6	1	0	未定
タイ	チュラロンコン大学	3	0	0	0	0	募集なし				募集なし				6	1	1	0	未定
ブラジル	サンパウロ大学	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
チリ	チリ大学	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	チリ・カトリック大学	2	1	0	0	0	0	0	0	0	募集なし				2	0	0	0	0
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	2									0	0	0	0	6	2	0	0	未定
カナダ	トロント大学	4	12	4	2	2	募集なし				募集なし				4	4	4	5	
	ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）	8	5	4	1	5	募集なし				募集なし				8	5	6	2	未定
	マギル大学	6	2	3	2	2	募集なし				0	0	0	0	8	3	1	2	未定
アメリカ	イェール大学（Fox International Fellowship Program）	若干名	1	0	0	0	募集なし				募集なし				若干名	2	0	0	未定
	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	10	3	2	1	3	募集なし				1	0	0	1	10	6	5	8	未定
	ジョンズ・ホプキンス大学　New!!	0													2	3	1	0	未定
	スウァスモアカレッジ	1	1	5	0	1	募集なし				募集なし				2	1	2	1	未定
	プリンストン大学（学部）	1	9	0	0	1	募集なし				募集なし				1	4	1	0	未定
	プリンストン大学（大学院）	0	募集なし				募集なし				募集なし				2	0	1	0	未定
	ワシントン大学　New!!	0													2	11	2	2	未定
オーストラリア	アデレード大学	6	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	10	1	0	2	未定
	オーストラリア国立大学（ANU）	8	5	5	1	4	募集なし				募集なし				12	1	3	5	未定
	クィーンズランド大学（UQ）	2	2	1	1	1	募集なし				募集なし				6	2	1	1	未定
	シドニー大学	6	0	3	2	2	0	1	0	0	1	0	0	1	10	1	5	1	未定
	ニューサウスウェールズ大学（UNSW）	6	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	12	0	0	0	0
	メルボルン大学	10	3	4	1	3	4	0	0	1	募集なし				8	3	3	4	未定
	モナシュ大学	10	0	0	1	0	募集なし				0	0	1	0	5	0	1	0	未定
ニュージーランド	オークランド大学	4	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4	3	3	0	未定
	オタゴ大学	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0	未定
デンマーク	コペンハーゲン大学	10	3	3	1	4	1	0	1	0	0	0	0	0	20	12	9	3	未定
フィンランド	ヘルシンキ大学	10	1	2	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	10	3	6	6	未定
フランス	エコール・ポリテクニーク	3	1	1	0	2	0	0	0	0	募集なし				3	0	0	0	0
	グルノーブル・アルプ大学　New!!	0													6	0	5	0	未定
	EHESS（社会科学高等研究院）	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	ストラスブール大学	6	3	1	0	2	募集なし				0	1	0	0	6	5	1	0	未定
	パリ政治学院（シアンスポ）	6	11	3	2	4	募集なし				募集なし				6	9	1	1	未定
ドイツ	ケルン大学	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	3	2	0	未定
	ベルリン自由大学	4	2	0	0	1	募集なし				0	0	0	0	4	2	2	0	未定
	ミュンヘン・ルートヴィヒ＝マクシミリアン大学（LMU）	6	2	1	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	4	4	2	0	未定
アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン　New!!	0													4	0	0	0	0
	ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン（UCD）	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ　New!!	0													1	0	0	1	未定
オランダ	フローニンゲン大学	4	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	未定
	ライデン大学	6	2	2	2	2	1	0	0	1	0	1	0	1	6	3	0	1	未定
ロシア	サンクトペテルブルク大学	4	2	0	0	2	募集なし				募集なし				6	2	1	0	未定
スウェーデン	ウプサラ大学	6	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	スウェーデン王立工科大学（KTH）	14	1	2	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	14	1	3	3	未定
	ストックホルム大学	4	1	0	0	1	0	2	0	0	1	2	1	1	4	0	7	10	未定
	ルンド大学	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	2	0	0	未定
スイス	ジュネーヴ大学	10	3	1	0	2	4	0	0	3	1	0	0	1	10	2	0	1	未定
	スイス連邦工科大学チューリッヒ（ETH）	20	4	0	4	5	3	0	0	3	1	0	0	1	15	10	2	0	未定
英国	ウォーリック大学　New!!	0													6	3	3	1	未定
	エクセター大学	8	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	5	2	未定
	サウサンプトン大学	10	1	2	1	2	募集なし				0	0	0	0	4	2	1	5	未定
	シェフィールド大学	4	3	1	0	2	募集なし				募集なし				4	1	2	0	未定
	ダラム大学	5	1	1	1	1	募集なし				募集なし				5	5	2	1	未定
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）	6	2	1	0	3	募集なし				募集なし				6	6	3	0	未定
	ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	3	1	0	未定
合計		369	108	66	33	77	21	9	5	14	15	9	6	15	422	150	111	76	0

※2016年度以前の応募状況については、全学交換留学Webサイトに掲載　⇒　http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/about/material.html

氏名：林 泉さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：工学系研究科修士 1年
留学先大学名：スイス連邦工科大学チューリッヒ校
留学プログラム名：全学交換留学
留学期間：2016年9月～2017年8月

暮らしやすい国スイスで多文化交流

バイリンガルなんて当たり前

世界有数の工科大学であるスイス連邦工科大学チューリッヒ校で2学期間留学し、技術経営やコンピューターサイエンスについて学んでいます。公用語が4つあるスイスの中でもドイツ語圏であるチューリッヒにいますが、大学院の授業は全て英語で行われます。私の所属する学科では留学生が多く、特にヨーロッパ圏からの学生は3つ以上の言語を操れる人が多い上、皆とても流暢に英語を話します。

また、こちらに来て一番印象的なのは学生の熱心さです。私の専攻では、仕事を辞めて大学に勉強しに戻っている人も多いからか、授業中も熱心な上、グループワークの進め方などもとても慣れているような印象を受けます。また、教授も学生と対話して理解度を確認しながら授業を進めていくため、学生側のモチベーションも高くなります。

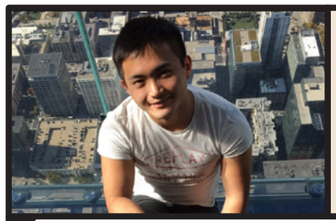
多くの文化が混在するスイス、そしてヨーロッパ

大学内は英語のみで支障はないですが、スーパーや交通機関など、日常生活はドイツ語に囲まれます。そのため、私は日本語を勉強したいスイスの学生と母国語の教えあいをしてドイツ語の勉強もしています。その一方で、時間に正確できっちり仕事をする国民性が日本と似ていて、生活しやすいです。

また、週末には頻繁にヨーロッパ内を旅行しています。パスポートなしで簡単に行き来できるというのは、日本では味わえない感覚です。留学先としてスイスを選んで良かったと思うことに一つに、手っ取り早く様々な国の人に会えることがあります。もちろん留学生同士もそうですが、スイス国内だけで複数の言語圏があり、それぞれの雰囲気も異なります。また、簡単に他国に訪れることができ、ヨーロッパの国々の文化・生活に触れることができています。地続きであれば国内という、日本にいた時とは異なるこちらの感覚こそ、世界の大部分の環境であるということを身を持って体験できるだけでも視野が広がり、留学する価値があると思います。ぜひ海外へ出てみてください。

スイスは物価が世界一高いと言われている通り、値段が高くてほとんど外食ができません。そのため、ほぼ毎日自炊をすることになりますが、お値段が高い分、外食すればほぼ必ず美味しいです。

全学交換留学体験談



氏名：鎌田 龍一さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：教養学部国際関係論コース 3年
留学先大学名：イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校
留学プログラム名：全学交換留学
留学期間：2016年8月～2017年5月

自由の国アメリカで人生最大の挑戦

留学生活概観～自由の国で多様な学び

アメリカの中央部に位置するイリノイ大学で、私は約9ヶ月間国際経済や市場を軸に勉強しています。授業は総じてディスカッションや課題量が多く、はじめのうちは語学力も足らず苦労しましたが、充実したフォロー制度や図書館システムもあり、着々と力がついています。イリノイ大学は巨大な公立大学で、人種もバックグラウンドも様々、また全体に気さくな風土なので、寮や食堂、ジムや授業で出会った学生らとすぐに仲良くなり、その中で価値観の多様性に触れる毎日です。また、休暇を利用してニューヨーク、ボストン、シカゴ、サンフランシスコ、フロリダなど多くの地を訪れ、アメリカの一体性や地域ごとの違いも身をもって体験できました。その中で実感したのはスペイン語人口の多さと彼らのプレゼンスの大きさ。英語に自信がついた今はスペイン語の勉強も再開しました。

人生最大の挑戦～本場でアメフト武者修行～

スポーツ超大国アメリカで、アメフトは比類のない人気や経済効果を持つ競技です。その本場でアメフトを学び、プレーすることは運動会アメフト部に所属する私の最大の目的の一つでした。イリノイ大学アメフト部The Fighting Illiniは全米一部上位リーグに所属し、NFL選手も輩出する強豪校。私は到着後すぐトライアウトに参加しましたが無念の落選。しかし、自主トレに打ち込みつつスタッフ業を一学期間経験し、日本では知り得なかったことを日々学びました。毎週末に友人と集まってテレビで観戦し、休暇中には念願のNFL観戦にも行き、スポーツの持つ無限の可能性に圧倒されました。冬休みにはフロリダのスポーツ施設IMGアカデミーで3週間練習し大きく成長、本稿執筆現在は今学期のトライアウト再挑戦に向けて準備中です。運動会に所属しているためかなり躊躇した留学でしたが、一度きりの、自分だけの人生、思い切って踏み出して本当に良かったと思っています。東大の留学プログラムは年々充実しています。挑戦をあきらめないで、知らない世界へ一歩踏み出しましょう!

NFLやNBA観戦も最高で、スポーツ好きにはたまりません!

全学交換留学体験談

氏名：山口 萌人さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：法学部第1類 私法コース 4年
留学先大学名：ダラム大学
留学プログラム名：全学交換留学（通年）
留学期間：2016年10月～2017年6月

「Comfort Zone = 安全地帯」を飛び出す1年間!

伝統的な英国の大学のスタイルとカルチャー

ダラム大学はオックスフォード・ケンブリッジに続き英国で3番目に歴史のある総合大学です。人文科学や社会科学において高い評価を得ている同大学で、私は法律と哲学、ビジネスを学んでいます。

自治権を持つカレッジ（寮）が重視されるダラムでは、カレッジ単位での行事や活動が多く、現地学生・留学生の枠を超えて密接な人間関係を育むことができるのも魅力です。私はカレッジのバスケットボールチームに所属し、カレッジ対抗戦に参加しています。アカデミックな集まりや団体も多く、それらが主催するドレスコードのあるFormal（晩餐会）での社交文化は伝統的な大学ならではでしょう。

「安全地帯」を飛び出して人間を鍛える

自分の知らない土地に留学することの最大のメリットは、それまで自分が当てにしてきたものを嫌が応にも取り払うことができる点だと感じています。日本での学業・課外活動等で積み上げてきたものが通用しない場所で、「生身の自分自身」を周りの学生や教官にどのように売り込むかという挑戦は、日本以上に自分自身の人柄や話術、ユーモアなど所謂「人間力」が試される点で困難が多いのも事実です。

どうしたら「よく分からない極東の島国からの留学生」である自分に興味を持たせられるのか。どうしたら法律上・学問上の議論で価値観の違う相手を説得できるのか。色々な国の人を交えた会話では、どのようなユーモアとバランス感覚が必要なのか。いずれも挑戦の毎日ですが、上手く行った時には大きな喜びが伴うものですし、その挑戦自体が非常にワクワクするものではないでしょうか。

みなさんの留学が、たくさんの挑戦と困難と失敗と忸怩たる思いと、そして成長と達成感と喜びに溢れたものになりますように!

全学交換留学体験談

氏名：小芦 昇子さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：教育学部 比較教育社会学コース 3年
留学先大学名：シンガポール国立大学
留学プログラム名：全学交換留学
留学期間：2016年8月～2017年5月

新たな環境での学び

シンガポールを知る

シンガポール国立大学で、2学期間の交換留学生として、社会学理論やシンガポールの経済・社会を中心に学んでいます。空き時間には予習文献を読んだり、グループエッセイ/プレゼンテーションのミーティングをしたりしています。学内の施設が充実しており、あちらこちらで夜遅くまで勉強している学生がたくさんいるのは、競争社会であるシンガポールらしさを感じるところです。また、課外活動としては、主に吹奏楽サークルと教育支援ボランティアに参加しています。吹奏楽サークルでは、小学生のころから続けてきたトロンボーンを吹いています。日本の吹奏楽文化の影響を強く受けていることに度々驚かされながら、音楽を通じて現地学生と楽しい時間を過ごしています。教育支援ボランティアでは、現地の大学生に混ざって、家での学習環境が整っていない中学生を対象に放課後学習のサポートをしています。日本で似たようなボランティアをしていたため、両国の比較ができますし、シンガポールの教育制度について中学生・大学生両方から教えてもらえるため、非常に勉強になっています。

みんな違ってみんないい

多様性にあふれたシンガポールには、違いを受け入れる寛容さがあると感じています。中華系、マレー系、インド系という三大ethnicity以外にも、勉学や仕事を目的に世界各地から人々が集まってきており、宗教も食習慣も言語も（英語であっても話し方が様々）、「これが標準」というものがありません。例えば、寮の鍋パーティーでムスリムやベジタリアン用の鍋が用意されるなど、違いを認めあいお互いを尊重することが当たり前となっています。そうした姿勢を学べたのは留学の意義の一つだと感じています。日本を出て、全く異なる環境で生活することは、人生の中で大切な経験になるはずです。奨学金制度や留学経験者のサポートをうまく利用しながら、ぜひ挑戦してみてください。

2. 長期派遣プログラム（UC、嶺南）&体験記

長期派遣プログラム（交換留学以外）

交換留学以外の方法で1学期～1年留学する場合、次のような方法があります。基本的には授業料等の費用は全て自己負担となりますが、中には奨学金つきプログラムや授業料が割引となるプログラムもあります。また、東京大学や民間財団などの留学用の奨学金に応募することもできます。（→p.41参照）

カリフォルニア大学バークレー校・デービス校派遣プログラム（UC派遣プログラム）

カリフォルニア大学2校との協力により、東大生を1学期～1年派遣する留学プログラムです。東京大学を通じて応募することが可能です。バークレー校のAmerican and International Study Program（AISP）ではアメリカ政治と国際関係を勉強します。デービス校のGlobal Study Program（GSP）ではデービス校で開講されているほぼ全ての授業から選択し勉強することができます。英語が苦手な学生は語学コースも実施されています。

嶺南大学派遣プログラム

香港にある嶺南大学に東大生を1学期～1年派遣する留学プログラムです。嶺南大学はリベラルアーツの大学として知られています。派遣学生は嶺南大学への授業料支払いは不要であり、嶺南大学から奨学金（約3,900USドル）が給付（返済不要）されます。なお、多くの授業が英語で開講されているので中国語の語学要件はありません。

大学公募の長期派遣プログラム

（1学期～1年のプログラム）

プログラム名	開催地	時期	費用 （授業料・宿泊費）	募集人数	語学レベル	応募締切	備考
カリフォルニア大学バークレー校・デービス校派遣プログラム（UC派遣プログラム）	アメリカ	バークレー: 1学期～1年 デービス: 1クォータ（11週）～1年	バークレー:20,000ドル／学期 デービス:授業料5,815ドル／クォーター+宿泊費	バークレー: 5名程度 デービス:20名	バークレー: TOEFL80 デービス: TOEFL61～80	4月（3月募集開始）	東京大学を通じて応募。正規授業履修や英語学習など
嶺南大学派遣プログラム	香港	1学期または1年	授業料免除 宿泊費 約HK$6,500/学期	1名	TOEFLiBT 79、 IIELTS 6.0	4月（9月留学） 9月（1月留学）	奨学金（約3,900USドル）給付

※各項目は、あくまで目安として2017年4月時点での情報を簡潔に記載しています。
募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報・詳細はウェブサイト等で確認してください。
※費用については、原則として航空賃・生活費等を除いた、授業料と宿泊費の目安を掲載しています。

嶺南大学の様子

UC派遣プログラム

氏名：小山 愛さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：文学部行動文化学科社会学専修
留学先大学名：カリフォルニア大学バークレー校
留学プログラム名：UC派遣プログラム
留学期間：2016年8月～2017年5月

You Only Live Once

他者との共生を模索

バークレーではあらゆる出来ごとが非常に濃密に感じられます。授業では毎週大量のリーディング、ライティングに加え中間試験が複数回課されるため、全てを完璧に仕上げるよりは要点を手際良くこなすことが求められます。AISPプログラムでは政治科学系の履修が推奨されますが、興味に応じて他学部の授業を履修することもできます。私はアメリカ政治、国際関係に加えEthnic Studies DepartmentのAsian American Studiesを受講し、アメリカ国内の移民、人種差別、エスニックグループの共生などについて学びました。バークレーの魅力は多様性に関して講義のみならず、実際に自分の目で観察し、体験できることです。時間のある時はサンフランシスコを訪れ、チャイナタウン、ミッション地区などエリアごとの差異や歴史について学んでいます。寮の国際交流イベントでは着物を着て日本のアピールを行いました。寮では様々な国からの留学生がで共存を実現しているかのように見える一方、結局同質な人々と固まってしまう排他性や、日本では味わうことのない「日本人であること」が「自分自身であること」に先行する息苦しさも経験しました。これらの葛藤は辛いながらも、他者との共生を考える上で示唆に富んだ経験となっています。

「今しかできないこと」とは何か

卒業の延長は決してリスクではありません。むしろ時間的余裕があるため留学先での勉学に集中し、自分の将来について深く考えることができます。先輩方の中には、これを機に後期課程の進路を大きく変えられた方も居ます。日常生活から学問まで様々な困難や葛藤がありますが、留学を後悔したことは一度もありません。興味があるならばまずは一歩を踏み出して、自分の可能性に挑戦してみてください。

UC派遣プログラム

氏名：谷口 太郎さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：法学部第2類 4年
留学先大学名：カリフォルニア大学デービス校
留学プログラム名：UC派遣プログラム
留学期間：2016年9月～2016年12月

すべて想定外のアメリカ体験

想定外その1:米大統領選、アメリカの政治に触れて

1学期間現地の学生と同様に授業を受け、キャンパスライフを過ごすプログラムに参加しました。ちょうど留学の時期に、あの大統領選が行われました。リベラル色の強いデービスでは、ほとんどの知人がクリントンの勝利を確信していたため、選挙後の混乱は相当大きいものでした。大学では抗議活動が発生し、一部の教授は心身衰弱のあまり授業に出られず、嘆きの投稿が私のFacebookを埋め尽くしました。一方、受講していた政治科学の講義では、白人労働者層をめぐる厳しい経済情勢や、民主党政権が8年間の長きにわたって続いたことを考えれば、共和党候補の勝利は驚きではないという解説がありました。リベラルを自称する人々も感情の働きには抗えないこと、不可解な事象を目の前にしても科学は依然として有効であることを肌で実感できたのは、政治システムや公共政策のあり方に関心がある私にとって、実に意義深い体験でした。

想定外その2:感謝祭、アメリカの文化に触れて

偶然にも隣の部屋にいたアメリカ人学生と親しくなり、感謝祭の休暇には、カリフォルニア南部にある彼の実家にお邪魔できました。七面鳥のディナー、アメリカンビーチ、ブラックフライデーの安売り、……アメリカ文化を心から楽しめた日々でした。彼を通じて知り合ったアメリカの若者は、ポケモンの最新作からトランプ政権の閣僚人事に至るまで、色々なことに悩み、喜ぶ生身の人間でした。大統領選の混乱も、充実した感謝祭の体験も、留学前には私もまったく想定していなかった体験です。「非日常に身を置くことで、人間の幅を広げるのが留学だ」という説明は、月並みで陳腐でしょう。でも、それは真実でした。留学を迷っている皆さんにはこう言いたいです。「いいからとりあえず行けよ!」

3. 短期派遣プログラム（サマー&ウインタープログラムなど）&体験記

Motivation for your Future

「自分の語学力が把握できた」「積極的なディスカッションの面白さを知った」「大切な友人が世界にできた」など、短期間の留学でも長期的な収穫を得ることができます。

短期派遣プログラムの長所

①期間が短く、費用が抑えられる
②東京大学での授業・課外活動・就職活動等への影響が低い
③短期間で海外文化の体験、学生との交流、語学力・学力向上が可能
④交換留学・大学院留学など長期の留学への準備となる

東京大学の国際交流協定を締結している大学（協定大学）等が夏に開催する既存のプログラムから、良質なプログラムを選別して、本学から参加する学生を募集します。世界トップレベルの学生と少人数で受講する集中的プログラム、専門科目を学ぶ講義型プログラム、語学学習中心のプログラムまで、様々なものがあります。原則、参加学生には返済不要の奨学金*を支給しているとともに、主催大学から授業料・宿泊料等の免除・割引が受けられるプログラムもあります。
2017年夏留学分の募集は終了しましたが、2018年夏募集分については、2017年12月頃に募集を開始する予定です。2017年は以下のようなプログラムを募集しました。（2018年については、プログラム等の変更の場合もあります。）

①2017年第1回 国際本部サマープログラム

●IARU Global Summer Program
IARU（International Alliance of Research Universities:国際研究型大学連合）に加盟する世界トップクラスの11大学によるプログラム。毎年6月から8月頃に2～6週間程度の期間で開催され、各校がお互いに学生の派遣・受入を行い、選抜された学生のために集中的なプログラムを実施します。日本から参加できるのは東大の学生のみです。参加学生は、世界トップレベルの学生と寝食をともにしながら、英語での課題・濃密なディスカッションに挑戦し、人生を変えるような刺激を受けて帰ってきています。
●協定大学等が主催するプログラム
東京大学と主に協定大学が主催するプログラムです。2017年は、UCバークレー、UCデービス、スタンフォード大学、清華大学、ソウル国立大学校、高麗大学、延世大学、国立台湾大学、ケルン大学のプログラムを募集しました。

東京大学が協定大学と連携して東大生のためにつくったプログラム（夏と冬）です。2017年は以下のプログラムの開催を予定しています。これらのプログラム参加者にも、原則、返済不要の奨学金を支給します。（2017年2月現在の予定であり、変更になる可能性があります）プログラムには以下の2つのカテゴリがあります。
《作り込み型プログラム》
東京大学の教員がパートナー校と連携し実施します。講義やフィールドワーク、現地学生とのグループワークや交流などを組み合わせたプログラムです。
《カスタマイズ型プログラム》
海外パートナー校に東大生向けのプログラムのカスタマイズを依頼して実施します。パートナー大学教員の講義、語学学習、語学サポート、文化体験などの要素を組み合わせたプログラムです。海外留学に興味があるものの語学力等に不安のある学生にも対応したプログラムもあります。

②2017年第1回 国際本部サマープログラム [予定]

《作り込み型プログラム》
●北京大学・東京大学合同サマープログラム　●香港大学・東京大学合同サマープログラム
●ソウル大学・東京大学合同サマープログラム
《カスタマイズ型プログラム》
●シェフィールド大学サマープログラム　●インドネシア大学サマープログラム

③国際本部ウインタープログラム [予定]

《作り込み型プログラム》
●国立台湾大学・東京大学合同（ウインタープログラム）
《カスタマイズ型プログラム》
●カリフォルニア大学サンディエゴ校ウインタープログラム　●インドネシア大学ウインタープログラム

*奨学金については、授業料等が大幅に免除となる場合も含みます。また、他の奨学金受給との兼ね合いなどで、受給できない場合もあり得ます。奨学金についてはP41も併せてご参照ください。

その他のプログラム

上記以外にも、費用の全額や一部を主催者が負担する海外研修や学生会議なども毎年数件実施されます。募集期間が短い場合が多いので、ウェブサイトやSNSでこまめに情報を得るようにしてください。（p.34「情報収集方法」のページも併せてご参照ください。）

年間募集サイクル

短期派遣プログラムの多くは、夏季（6月～8月頃 ）、冬季（1月～3月頃）に実施されます。特に夏季はサマープログラムとして最も多く開催される期間です。（夏季のプログラムは、1～2月頃に募集されるのが一般的ですが、4～6月まで応募可能なものもあります。）募集期間が短く、締切が早いプログラムも多いため、参加可能なプログラムの選択肢を広げるには、TOEFL・IELTSを受験し、募集期間までに必要なスコアを所持しておくことが大切です。一般的な夏季および冬季の留学プログラム（大学本部を通じて応募するもの）の募集サイクル※以下の2つの募集サイクルは代表的な例で、これに当てはまらないプログラムもあります。

一般的な夏季および冬季の留学プログラム（大学本部を通じて応募するもの）の募集サイクル※以下の2つの募集サイクルは代表的な例で、これに当てはまらないプログラムもあります。

夏季 [予定]

～12月まで	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	募集時期①12～2月頃（第1回）サマープログラム ○情報収集・学内申請書作成 ○2月中旬頃学内応募締切		○学内選考（書面） ○（東京大学からの推薦が必要なプログラムについては）学内選考通過者を派遣先大学へ推薦、派遣先大学での審査、審査結果連絡		○各自プログラム実施大学への参加申請 ○留学開始までの手続き（宿舎・ビザ・保険等） ○学内の派遣前オリエンテーションへ参加		プログラム開講			
					募集時期②4～5月頃（第2回）サマープログラム ○情報収集・学内申請書作成 ○5月下旬頃学内応募締切		○学内選考（書面） ○留学開始までの手続き（宿舎・ビザ・保険等）、事前学習 ○学内の派遣前オリエンテーションへ参加		プログラム開講	

冬季 [予定] 開講に向けて調整中のため、下記は暫定的なスケジュールです。

～7月まで	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
			募集時期③9～10月頃ウインタープログラム ○情報収集・学内申請書作成 ○10月頃学内応募締切		○学内選考（書面） ○留学開始までの手続き（宿舎・ビザ・保険等）、事前学習 ○学内の派遣前オリエンテーションへ参加			プログラム開講		

短期派遣プログラム一覧（国際本部担当プログラム）

大学を通じて応募する3ヶ月未満の留学プログラムのなかにも、語学力の向上を目的とする語学学習系から、アカデミックなテーマについて授業・ディスカッションを行う講義受講系のもの、それら両方が組み合わさったもの、フィールドワークを含むものなど、様々なものがあります。
60を超える各種サマー及びウインタープログラムについて、国際本部では、2017年度に3回にわけて募集する予定です。その他にも、単発で募集するものもあります。

※下記情報は2017年2月現在の予定となり、変更となる場合があります。

プログラム名	開催地	時期	授業料・宿泊費［概算］	募集人数（本学内での募集人数）	語学レベル	募集開始	応募締切	備考

世界各国で開催される、既存のサマープログラムへ、参加する学生を、募集します。
語学学習中心のものから、専門科目を学ぶものまで、様々なプログラムがあります。

東京大学国際本部　奨学金付き夏季短期留学プログラム（2017年第1回）

海外大学既存の短期留学プログラム	IARU Global Summer Program（IARU GSP）	世界8カ国	6～8月の2～6週間	4～70万円（奨学金6万円～40万円を支給）	40名程度	高（TOEFL80～100目安）	12月	2月	
		IARUに加盟する世界トップレベル11大学での夏季留学プログラム。 （派遣先大学）オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学、北京大学、カリフォルニア大学バークレー校、ケンブリッジ大学、コペンハーゲン大学、オックスフォード大学、イェール大学、ケープタウン大学							
	協定校等が実施するプログラム	世界各国	5月～9月の数週間	0～100万円（奨学金6万円～48万円を支給）	未定	プログラムにより異なる	12月	2月	
		（2017年派遣先大学の例）台湾:国立台湾大学　アメリカ:カリフォルニア大学（バークレー校、デービス校）　ドイツ:ケルン大学 韓国:高麗大学、延世大学							

海外パートナー校と連携して、東大生のためにつくったサマープログラムとウインタープログラム

東京大学国際本部　サマープログラム（2017年第2回）［予定］

作り込み型プログラム	† 北京大学・東京大学合同サマープログラム	中国	未定	未定	12名	英語でディスカッション等できるレベル	4月	5月	フィールドワーク＋講義等
	† 香港大学・東京大学合同サマープログラム	香港	未定	未定	15名	英語でディスカッション等できるレベル			〃
	† ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	韓国・日本（予定）	未定	未定	15名（学部学生）	英語でディスカッション等できるレベル			〃
カスタマイズ型プログラム	† シェフィールド大学サマープログラム	英国	未定	未定	24名（学部学生）	中（TOEFL65-80目安）			英語による講義＋事前・事後セミナー＋語学研修等
	† インドネシア大学サマープログラム	インドネシア	未定	未定	15名程度	中（TOEFL iBT 64～, TOEIC 600～, IELTS 5.5～）			英語による講義＋文化体験等
東京大学国際本部　ウインタープログラム（2018年）［予定］									
〃	† 国立台湾大学・東京大学合同ウインタープログラム	台湾	未定	未定	未定	英語でディスカッション等できるレベル	10月	12月	フィールドワーク＋講義等
〃	† カリフォルニア大学サンディエゴ校ウインタープログラム	アメリカ	1月下旬頃	2900米ドル相当（前回実績）	24名程度（学部学生）	中（TOEFL65-80目安）			英語による講義＋事前・事後セミナー等
〃	† インドネシア大学ウインタープログラム	インドネシア	未定	未定	15名程度	中（TOEFL iBT 64～, TOEIC 600～, IELTS 5.5～）			英語による講義＋文化体験等

海外大学や国内外の団体等のプログラムについて、プログラムごとに単発で参加希望学生を募集します。

その他のプログラム							
CSPC Presidential Fellows Program	アメリカ	10月・3月の1週間ずつ	主催者が負担	1名	高（米国学生と比べても問題ない程度）	5月頃	6月頃	ワシントンDCでの研修及び研究（米国政治関係）
ストックホルム国際青年科学セミナー	スウェーデン	12月の1週間程度	国際科学技術財団が負担	2名	英語力を駆使して十分なコミュニケーションがとれること	5月頃	8月	ノーベル賞授賞式への出席のほか、世界の学生と交流
パリ政治学院（Sciences Po）European Studies Programme	フランス	2～3月の4週間程度	4,000ユーロ程度	7名程度	高（TOEFL87またはIELTS 6.0必須）	10月頃	11月頃	使用言語は英語。日本の学生向けプログラム

※各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報・詳細はウェブサイト等で確認してください。
※費用については、原則として航空賃・生活費等を除いた、授業料と宿泊費の目安を掲載しています。
※†印のものは2017年2月現在、開催に向けて調整中のため、各項目は暫定的な情報です。
*奨学金の受給には、一定の条件を満たす必要があります。

プログラムの留学体験談

氏名：滝沢 優真さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：経済学部
留学先大学名：香港大学
留学プログラム名：香港大学・東京大学合同サマープログラム
留学期間：2016年8月

アジアの中心「香港」を感じた2週間

全学ではなくサマープログラムという考え方

香港大学との合同サマープログラムでは、香港大・東大合わせて25人ほどが参加し、8月上旬の2週間香港大学の寮で生活しながら「海外で活躍する日本人・企業」というテーマに焦点を当て、レクチャーやフィールドワークを行いました。参加者は両大学がミックスされた5人ほどの班に分けられ、最終日に発表を行いました。
留学と聞くと1年間の全学交換留学が思い浮かびますが、現行のシステムでは就活などの兼ね合いから学年を落とさざるを得ないケースも多くなっています。一方、大学の長期休暇を利用したサマープログラムでは、日本での学業・就活と海外経験とを両立させることができます。また、いきなり長期の留学を行うことや語学面不安を感じる方にとっても、「海外で学ぶとはどういうことか」を体験できるプログラムです。

東大×香港大、特別なサマープログラムだからできること

今回のプログラムは2週間とは思えないほど濃密なものでした。香港政府や香港で働く日本企業のリーダーが次々と登壇し、近い距離でスピーチやディスカッションを行うことができました。また、世界一の貨物取扱量を誇る香港国際空港の貨物ターミナルを、JALのサポートの下で見学できたことも印象的でした。さらに、旅費は東大側が、寮や食事、現地の移動手段は香港大学が提供してくれましたし※、プログラム作成に尽力してくださった両大学の教授陣を含め、様々な方が全力でこのプログラムを応援してくださっていることを感じました。これは将来のアジアを背負っていくべき我々への期待であり、コミットメントであると考えています。お世話になった方たちの期待に沿えるよう、今回の経験を消化して次に繋げていきたいですし、将来は海外オフィスで働く経験もしてみたいです。
※編集注：2016年時点の情報です。

プログラムの留学体験談

氏名：李 徳洋さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：教養学部理科一類 2年
留学先大学名：カリフォルニア大学バークレー校
留学プログラム名：Summer Session E
留学期間：2015年7月～2015年8月

バークレー校での一夏の思い出

Top Schoolでの学校生活

カリフォルニア大学バークレー校は、アメリカTopの州立大学の一つです。理工系では世界一を争う名門校であると同時にリベラルアーツにも非常に力を入れています。私が参加したSummer Sessionは1ヶ月から3ヶ月現地の学生と共に期間中開講されている授業を受けるものです。私は7月末から約1ヶ月3つの人種に関する授業を受講しました。各授業は週2回の講義と一回のディスカッションから構成されます。授業形式はというと日本で良く見る、大人数での消極的座学型と全く違い、少人数での積極的参加型のものが多いです。また短い期間ではありましたが、毎回の授業後には大量の宿題が出され、みっちり学ぶことができます。

「一夏の恋」のすすめ。

私がカリフォルニア大学バークレー校への留学を希望したのは、大学院進学への準備をしたかったからです。大学院留学は学位取得を目的にする為、長期間での生活になります。しかし、晴れて大学院に進学して、ここの雰囲気自分に合わない、となったら自分の貴重な時間がもったいないですよね?それを避ける為、また留学したことのなかった自分は、そもそも留学ってどんな感じか?という疑問への答えを出す為に、「一夏の恋」程度の手軽な短期留学を希望しました。実際期間中は現地大学生7人との共同生活を通し英語でコミュニケーションを取ることの難しさを痛感したり、英語で長編のエッセイや期末テストを受けるといった経験をすることができ、十分に良い「恋」ができたのではないかと思っています。私と同じ様に将来学位取得を目的とした留学をしたいが、留学を体験したことのない方は、まずは短期留学をし、実際に飛び込んでみることをお勧めします。皆さんの留学が素敵なものになりますように!

プログラムの留学体験談

氏名：松本 玲央奈さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：前期教養学部2年
留学先大学名：シンガポール大学
留学プログラム名：IARUグローバルサマープログラム
留学期間：2016年6月～2016年7月

シンガポール ―「今」を生きた夏

よく学び、よく遊べ

2016年6月中旬からシンガポール国立大学での5週間に及ぶプログラムに参加しました。Southeast Asia in Contextというトピックの下で週に3回6時間の授業、そしてシンガポール国内の博物館をめぐるフィールドトリップ、加えて一週間のミャンマーでの研修旅行が行われました。周りにいるのは英語母語者または英語圏で学んでいる学生のみです。ディスカッション中心の授業では彼らの事前準備の豊富さに圧倒され、日本人だからと言って舐められてはいけない、と夜中まで必死に勉強したことも多々ありました。

大学内の寮に泊まったため朝から晩までクラスメートに囲まれ、共に勉強し、そして共に遊びつくしました。授業がない日にはシンガポールを隅々まで観光し、そしてレポート提出前には24時間開いているパソコン室で夜食をつまみつつ文字数と格闘しました。

世界の広さ、そして狭さ

私にとってこのプログラムは一足早い夏休みであったように感じます。食中毒になったり、劣等感に襲われたり、人生について語り明かしたり、ミャンマーのホテルのプールに飛び込んだり、南国で過ごした一か月間のすべてが良い思い出です。東大というある種の均一的な環境では得られない多様性がこのプログラムに、そしてシンガポールにありました。

プログラム中には各国でテロが起き、私たちの中には必ず青ざめた顔のテロ発生国の出身者がいました。Brexitの投票後には驚愕するイギリス人学生を中心に将来を憂いました。変わりゆく世界の中でここまで各国の情勢を身近に感じたことはありません。この時代の当事者の一人であるという自覚、そして世界のどこかで起きている悲劇への想像力を養えたことがプログラムを通じた一番の収穫であると感じています。

プログラムの留学体験談

氏名：碓井 晃樹さん
所属学部・研究科・学年（留学開始時）：教養学部文科一類 1年
留学先大学名：国立台湾大学
留学プログラム名：NTU×UT Joint Summer Program
留学期間：2014年8月～9月

「小さな東アジア」の体験

共に過ごすことで「国籍」を超えた繋がりに

私が参加したのは国立台湾大学と東大との合同サマープログラムで、両大学の学生それぞれ12人ずつが参加しました。日台の学生が混ざって班に分かれ予めテーマを設定し、講義と外部訪問での内容を踏まえ最終日にプレゼンを行うという流れでした。講義・外部訪問で印象深かったのは日台中関係や台湾の学生運動など政治的な面でのお話です。総統府や民進党本部でお話を伺うことができるなど非常に有意義な学習でした。また、始めから班に分かれたことにより両者の打ち解けも早くプログラム外での活動も楽しいものでした。有名な夜市や九份など多くの観光地に一緒に行くことができ、学習以外の面でも非常に充実していたと感じています。
全体として満足度の高いプログラムでしたが、その中でも最も印象的だったのは、参加者の幅の広さです。東大側の参加者には在日韓国人の方や中国人留学生の方もいて、日台中韓の「小さな東アジア」がそこにはあり、多くの刺激を受けることが出来ました。歴史認識問題など非常に敏感な話題に関しても臆することなく意見を交わすことができ、それまでの自分の視野の狭さを実感することも多々ありました。これも、3週間共に過ごし「国籍」を超えて一人の「人間」同士として打ち解けられたからこそであり、このプログラムの最大の長所だと思います。

海外を知るなら、まずは「最も近い外国」から

留学、と聞いて欧米ばかりをイメージするのは非常に勿体ないと思います。グローバル人材への第一歩として、まずは「最も近い外国」である台湾を知ることが、外国人との価値観の相違点・共通点を認識していく訓練になるのではないでしょうか。英語は伝えようと頑張れば案外伝わるものですし、話してみなければ上達しません。特に私のように海外経験が浅い人はとにかくこのプログラムに参加し、外国の方と直に触れ合って外国を自分にとってより近い存在にすることが重要だと思います。

4. 個人応募プログラム

長期派遣プログラム（個人応募）

個人で応募して1学期～1年留学する場合、以下のような方法があります。基本的には授業料等の費用は全て自己負担となりますが、中には奨学金つきプログラムや授業料が割引となるプログラムもあります。また、東京大学や民間財団などの留学用の奨学金に応募することもできます。（p.40参照）

海外大学のVisiting Studentプログラムなど

海外の大学では、Visiting Studentなどの身分で他大学の学生を1学期～1年間受け入れる大学もあり、そのような大学に個人で応募することも可能です。

学外の団体や民間奨学金による留学プログラム

学外の団体を利用すると留学手続きのサポートなどを受けることができますが、その分費用が高くなる傾向があります。ただし、民間の奨学団体などにより奨学金が支給されるプログラムもあります。

短期派遣プログラム（個人応募）

毎年夏には、世界中の大学が、他大学の学生も履修可能な集中講義や語学研修などのサマープログラムを実施します。このようなプログラムに個人で応募し、参加することも可能です。民間の留学斡旋業者も多くの留学プログラムを実施しています。

個人応募の場合、費用は全て自己負担となりますが、東京大学や民間財団などの留学用の奨学金に応募することも可能です。ただし、3ヶ月未満の留学用の奨学金は、1学期～1年の留学に比べて数が少なくなっています。（p.40参照）

個人応募で留学する場合の注意事項

手続き等をすべて自己責任で進めることになります。期間やプログラムの内容、費用、参加条件など予め十分な情報収集を行ってください。学外の団体を利用する場合は、自分自身の責任と判断により信頼性を確認し、自分の目的に合った団体・プログラムを選んでください。

参考：日本学生支援機構「留学斡旋業者の利用について」

http://ryugaku.jasso.go.jp/oversea_info/basic/agency/

また、応募前に、個人で留学する場合の留意点について、留学時の東京大学での所属学部・研究科等の担当部署に必ず確認・相談してください。参加が決まったら、安全と危機管理（P44参照）の面でも十分注意してください。

その他の留学プログラム（個人応募のプログラムなど）の例

長期派遣のプログラム

プログラム名	開催地	時期	費用（授業料・宿泊費）	募集人数	語学レベル	応募締切	備考
イリノイ大学 小山八郎記念奨学留学生	アメリカ	8月-5月	授業料免除	4名	高（TOEFL 79、IELTS 6.5）	10月	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校教養学部への留学
ベイツ大学 平沢和重奨学基金	アメリカ	9月-5月	授業料・寄宿舎費用を全額支給	1名	高	12月	大学1～3年生を優先
The Study Abroad Foundation SAF留学	世界各国	プログラムにより異なる					SAFという団体を利用した海外大学への留学。語学力強化、授業履修など
ハーバード大学 Visiting Undergraduate Student Program	アメリカ	8月-12月 and/or 1月-5月	授業料 5,410米ドル/course 宿泊費 4,947米ドル/semester 他	不明	高	4月（8月留学） 10月（1月留学）	
コロンビア大学 Visiting Student Program	アメリカ	9月-12月 and/or 1月-6月	授業料 約50,000米ドル/year 宿泊費・食費 約13,000米ドル/year	不明	高（TOEFL 100、IELTS 7）	3月（9月留学） 10月（1月留学）	
オックスフォード大学 Visiting Student programme at St Peter's College	英国	10月-6月	約30,000ポンド/year	不明	高（TOEFL 110、IELTS 7）	1月	
London School of Economics and Political Science The General Course	英国	9月-5月	約20,000ポンド/year+宿泊費	不明	高（IELTS 7）	1月～6月頃 （定員に達した時点で終了）	

短期派遣のプログラム

プログラム名	開催地	時期	費用（授業料・宿泊費）	募集人数	語学レベル	応募締切	備考
世界各国の有力大学 Summer Session, Summer School	世界各国	5月～8月頃	数十万円	多数	高（プログラムにより異なる）	3月～5月頃	世界の有力大学の夏季集中講義に個人応募で参加可能 例：ハーバード大、スタンフォード大等
International Summer School, New Delhi （会場：Jawaharlar Nehru University）	インド	6月25日-8月4日	4,250米ドル或いは3,850米ドル（宿舎によって異なる）（うち授業料1,400米ドル分の奨学金あり）	東大生への奨学金2名（昨年度）		4/30	インド政府観光省後援のプログラム。東大生限定の奨学金（授業料1,400米ドル相当分）を2名に支給（昨年度）
カリフォルニア大学各校 Extension（附属語学学校）	アメリカ	随時	数十万円	プログラムによる	中～低	随時	カリフォルニア大学各校には附属の語学学校があり、海外学生を受け入れている
VIA Stanford Programs	アメリカ	春・夏の数週間	数十万円～	プログラムによる			VIA（米国NPO）によるスタンフォード大学等でのプログラム。医療、社会変革、社会起業家、語学等のプログラム

※各項目は、あくまで目安として2017年2月時点での情報を簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報・詳細はウェブサイト等で確認してください。
※費用については、原則として航空賃・生活費等を除いた、授業料と宿泊費の目安を掲載しています。 ※TOEFLはiBTスコアを記載しています。 ※上記は一例で、他にも様々なプログラムがあります。

Ⅱ-2 その他の留学・国際交流プログラム

5. GLP-GEfIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラム

GLP-GEfIL（Global Education for Innovation and Leadership）は、国際社会における指導的人材の育成を目的とした学部学生対象の特別教育プログラムです。GLP-GEfILでは、プログラムの一環として、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラム等に、修学中に2回参加する機会を設けています。また、海外派遣にあたっては、協賛企業の寄付による奨学金（地域、期間等に応じて最高100万円まで）を支給します。

GLP-GEfILは、語学力や意欲等により選抜された学生が履修できます。学部2年生（PEAK学生は1年生）を対象に、年度に一回、選抜を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

[GLP-GEfILウェブサイト] http://www.glp.u-tokyo.ac.jp
[facebook] https://www.facebook.com/Utokyo-Glp-Gefil-東京大学グローバルリーダー育成プログラム-589069901189419/

GLP-GEfIL海外プログラム派遣先例（2017年度）

プログラム名	開催地	期間
LSE-PKU Summer School in Beijing	中国	8月 2週間
Stanford Summer International Honors Program (SSIHP)	アメリカ	6月～8月 8週間
Harvard Summer School	アメリカ	6月～8月 7週間
Yale Summer School	アメリカ	5月～8月 5週間
Vancouver Summer School	カナダ	6月～8月 4週間
Pembroke-King's Summer Programme	イギリス	7月～8月 8週間
LSE Summer School	イギリス	6月～8月 3週間
Oxford: International Politics Summer School	イギリス	7月～8月 2週間
Geneva Graduate Institute Summer Programme on International Affairs and Multilateral Governance	スイス	6月～7月 3週間
Munich Summer Program 'Management Practices and Corporate Communications in a Global Environment'	ドイツ	8月 3週間
Helsinki University Summer School	フィンランド	8月 2週間
Summer School in Global Health Challenges, Copenhagen	デンマーク	7月～8月 2週間
HEC Paris Summer School	フランス	6月～7月 2週間
Venice International University	イタリア	6月～7月 2週間
Grotius Centre for International Legal Studies (Leiden University)	オランダ	6月～7月 2週間
LSE-University of Cape Town	南アフリカ	6月～7月 2週間

※上記はGEfIL履修生を対象として2017年度に提供した海外プログラムの一部です。詳細はウェブサイトをご覧ください。http://www.glp.u-tokyo.ac.jp/gefil/abroad/

GLP-GEfILの概要

❶GEfIL実践研究：学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に、創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実施していくことを目標とします。
❷GEfIL海外プログラム：3年次及び4年次に、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。
❸グローバルリーダー講義：世界の第一線で活躍しているビジネスリーダー、起業家、国際的専門家を迎えて行う講義です。
❹GEfIL共通授業科目：高度なグローバル教養や、実践的な外国語能力の育成、アカデミック・スキルの獲得等を目指す英語で行われる授業科目群です。

協賛企業

東京大学グローバルリーダー育成プログラムの海外派遣の奨学金は、趣旨にご賛同いただいた下記の企業様の支援によって実現しています。
株式会社IHI、旭化成株式会社、アステラス製薬株式会社、エーザイ株式会社、ABB株式会社、大塚製薬株式会社、JFEホールディングス株式会社、塩野義製薬株式会社、住友商事株式会社、住友生命保険相互会社、住友不動産株式会社、武田薬品工業株式会社、東海旅客鉄道株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東レ株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、富士電機株式会社、株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス、三菱重工業株式会社、三菱電機株式会社、株式会社LIXIL（2017年1月現在）
本プログラムに関するお問合はGLP推進室までお願いします。e-mail: glp-gefil.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

6. 本部学生支援課
体験活動プログラム・海外企業体験活動

体験活動プログラムは、学部学生の皆さんが今までの生活と異なる文化・価値観に触れ、新しい考え方を身に付けることを目指したプログラムです。奨励金の支給等による経済的な支援があり、皆さん自身もプログラムの企画・実施に携わることができます。

これまで、ニューヨークで働くOB・OG訪問など国際・就労体験、院内学級における学習支援などボランティア、北海道の農場・牧場作業など自然体験、学内研究室での研究体験など、正課授業では経験することが難しいさまざまな機会を提供しています。海外で実施する国際交流体験活動プログラムの多くは、夏季・春季休暇期間を中心に1週間～1ヶ月程度活動するものです。自由な時間を利用して、積極的に参加してください。

今年度実施するプログラムについては、体験活動プログラムのウェブサイトをご参照ください。

URL: http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html　もしくは、「東京大学　体験活動」で検索

国際交流　体験活動プログラム一覧（平成28年度版）

プログラム名(通称)	内容	開催地	時期	期間
中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流	卒業生との交流	中国（北京・上海）	3月	10日
上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動	卒業生との交流	中国（上海）	3月	11日
大学・企業・文化体験 in 韓国 ―韓国を知る、韓国から日本を見る―	現地学生との交流	韓国（ソウル）	8月	7日
シンガポールでビジネスを学んでみよう	卒業生との交流	シンガポール	8-9月	9日
医学と平和	医療施設訪問	カンボジア（プノンペン）	8月	7日
新興国インドでの体験活動-インド赤門会との交流・IIT―K日本語授業サポート―	卒業生との交流	インド（ニューデリー）	2月	7日
TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)	サマープログラム	イギリス（オクスフォード）	8-9月	32日
英国ロンドン、海外で働くとは	卒業生との交流	イギリス（ロンドン）	2-3月	5日
VE_italia-Veneto Experience	ワークショップ	イタリア（ヴェネチア）	3月	14日
フランスEcole Polytechniqueにおける研修（理系）	現地学生との交流	フランス（パリ）	2-3月	14日
アラブ首長国連邦の「いま」:沸騰都市ドバイ,未来都市マスダール,石油都市アブダビ	卒業生との交流	UAE（ドバイ・マスダール・アブダビ）	9月	9日
ハーバード大学医学部研究室の訪問・デスカッション	医学系研究室訪問	アメリカ（ボストン）	8月	11日
Work experience in the international venture business in Boston	卒業生との交流	アメリカ（ボストン）	8月	14日
「日本とアメリカの現在と未来: ドキュメンタリー映像制作@ロサンゼルス」	映画製作	アメリカ（ロサンゼルス）	8-9月	9日
アメリカで事業をすることの素晴らしさとチャレンジ（内側からアメリカ社会をみてみよう）	卒業生との交流	アメリカ（シカゴ）	8月	7日
国連（NY）での会議に学生ボランティアとして参加	ボランティア	アメリカ（ニューヨーク）	2月	5日
有機農場 での Community Supported Agriculture 体験（米国）	農場体験	アメリカ（ニュージャージー）	8-9月、3月	14日
オーガニック農場でのSustainable agriculture 体験（米国）	農場体験	アメリカ（コネチカット）	8-9月	14日
世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう	卒業生との交流	アメリカ（ニューヨーク）	8月	8日
日本語教室でのボランティア	日本語指導	日本（本郷キャンパス）	10月-翌年1月	4ヶ月
Documentary research for the French Embassy	インターンシップ	日本（東京）	7-12月	20日

※上記プログラムは平成28年度のものです。平成29年度は実施しないプログラム、上記に記載のないプログラムもありますので、必ず学内説明会、及びウェブサイトで最新情報を確認してください。各項目はあくまで目安とし、簡潔に掲載しています。
※体験活動プログラムは国際交流体験だけではなく、ボランティア、就労体験、農林水産業、地域体験、フィールドワーク、研究室体験など、様々な活動を含みます。上記表は国際交流体験のみの抜粋です。

体験活動プログラム参加者の声

8月に一週間、カンボジアで、紛争がもたらした保健制度破壊とその後の復興について学ぶプログラムに参加させて頂きました。ポルポト政権時の医師をはじめとする知識人大量虐殺の処刑場であったトゥールスレン虐殺博物館を見学し、悲惨な紛争の歴史を学びました。また、世界機関であるWHOから農村のNGOに至るまで、様々なphaseの医療現場を訪問し、紛争後の現在、どのような医療が行われているのかを学びました。紛争後の発展はめざましく、中々個人では行けない施設にも訪問させて頂き、大変貴重で面白い体験となりました。

医学と平和
医学部医学科 5年
野村 隆之介さん（※写真左から4番目）

WHO事務所、プノンペン市内の病院、地方の保健センター、NGO

東大生海外体験プロジェクト（海外企業体験活動）

「海外企業体験活動」は、経済界などで活躍する卒業生が、「留学する環境に恵まれた一部の学生だけでなく、より多くの学生に、積極的に海外体験をしてほしい」という理念により、自発的に寄附募集活動を進めている「東大生海外体験プロジェクト」の中の1つです。

学部前期・後期課程の学生を対象とし、海外で活躍する日本人の業務を間近で見る等の機会を通し、学生にとって人生のグローバルキャリア形成を考えるきっかけとなる機会を提供するため、プログラムを実施します。

活動場所はアメリカ、ヨーロッパ、アジア等にオフィスを構える企業を中心に世界各国で、多様な業務体験（マーケティング、商品開発、製造、研究開発等）では自身の専門知識やスキルを活かすこともできます。実施時期は8月から9月の2週間程度で、夏期休暇を利用し休学することなく参加が可能です。是非、海外の企業で自分の力を試してみませんか。

今年度実施するプログラムについては、海外企業体験活動のウェブサイトをご参照ください。

URL: http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h001_j.html

海外企業体験プログラム一覧（平成28年度版）

American Standard Brands（アメリカ）
GROHE GROUP（ドイツ）
LIXIL INAX Vietnam Corporation （ベトナム）
Permasteelisa（イタリア）
Rakuten USA（アメリカ）

海外企業体験プログラムへの本学の支援

本プログラムは、卒業生による寄附募集活動「東大生海外体験プロジェクト」による寄附金を原資に、活動に関する経済的な支援（上限500,000円）が行われます。

発起人の皆様

藤森 義明 様（'75 工卒）・代表発起人
三谷 宏幸 様（'77 工卒）
吉田 正樹 様（'83 法卒）
森 浩生 様（'86 経卒）
浅尾 慶一郎 様（'87 法卒）
中居 英治 様（'87 法卒）
山田 善久 様（'87 法卒）

協力

株式会社LIXIL、楽天株式会社

海外企業体験プログラム参加者の声

原材料の仕入れから完成品の発送まで、流通を包括的に管理してる部署でのインターンシップでした。取引先とメールをドイツ語や英語でやりとりする等、実際の業務を体験することができました。滞在地Iserlohnを社員さんに案内してもらい、夕食をご一緒したり、出張に来ていたメキシコ人の車にすし詰めになって通勤したりと、インターンシップ以外の時間も刺激に満ちあふれていました。期待以上に楽しく充実した2週間で、将来のことをポジティブに考える良いきっかけになりました。

GROHE GROUP
教養学部前期課程2年
石井 悦子さん

渡航先：ドイツ
滞在期間：2016年8月（2週間）

イタリアのPermasteelisaという建設系の会社で、2週間インターンをさせていただきました。3Dモデリングの業務に携わりながら、週末にはヴェネチアを訪れたりしました。日本人が全くいないということもあり、海外経験がほとんどなかった私にとっては未知の連続で、毎日が張り詰めていた2週間でしたが、自分の頭で考え、適応し、楽しみながら切り開くということの芽が出せたように思います。世界各地の社員の方の人生観や仕事観を伺いながら、最先端の業務に携われたことを大変ありがたく思います。この恵まれた機会を生かして、みなさんもぜひ一歩踏み出してみてください!

Permasteelisa
工学部3年
吉岡 七海さん

渡航先：イタリア
滞在期間：2016年9月（2週間）

私は本プログラムに参加するまで英語力不足が原因で海外というものに高いハードルを感じていました。しかし実際に海外の企業で勤務させていただく中で、英語力そのものよりも議論に参加し自分の考えを伝えようとする姿勢の方が大切だと気づき、今まで感じていた海外に対する壁が取り払われました。海外留学や海外で勤務することに興味を持っていながら自信の無さゆえに1歩を踏み出せないでいる学生はたくさんいると思います。本プログラムはそのような学生にもってこいのプログラムではないかと感じています。

LIXIL INAX Vietnam Corporation
工学部3年
永瀬 寛典さん

渡航先：ベトナム
滞在期間：2016年8月（2週間）

Rakuten USAでの10日間では、オフィスでの多様性(diversity)の現状とその課題に取り組むため、そこで働く様々な部署の方々にお会いし、直接お話を伺いました。最終日には、それらを踏まえ、社長への提言プレゼンテーションを行いました。参加前の私は、「働く」ということに対して漠然としたイメージしかありませんでした。しかし、このプログラムに参加し、多くのロールモデルと出会う中で、自分がどのような仕事がしたいのか、少しずつ見えてきたと思っています。今後、進路の選択に迫られたときに、必ず振り返るであろう貴重な体験の一つです。

Rakuten USA
教養学部前期課程2年
岡田 七峰さん

渡航先：アメリカ
滞在期間：2016年8月（10日間）

7. 各学部・研究科の取り組み

東京大学リベラルアーツ・プログラム（教養学部・総合文化研究科）

リベラルアーツ・プログラム（LAP）は、教養教育を海外へ発信し、学生交流を通じてグローバルな視野と総合的判断力を備えた人材の育成を目指す教育交流プログラムです。中国の南京大学と連携し、（1）毎年3月に学部1年生から院生までの混合チームを派遣してフィールドワークとグループ討論を行います（1週間派遣）。（2）毎年8月に南京大学で中国語の特訓サマースクールを実施し、中国語履修の学部2年生を派遣します（3週間派遣）。（3）毎年11月に南京大学の学生を駒場に招き、東京大学一週間体験プログラムを実施。東大生とともにフィールドワークとグループ討論を行います（1週間）。さらに、（4）学部3年生以上を対象に、中国語上級サマースクール「深思北京」を、中国人民大学と連携して、秋に開講しています（1週間派遣）。詳しい紹介と参加者の体験談はLAPのウェブサイトをご覧ください。意欲的な学生の参加を期待します。

対象学生：主に学部学生を対象とするが大学院生も参加可。専攻・学年の別は問いません。
実施期間・時期：上記参照。
応募方法：レポート審査もしくは面接。
問い合わせ先：総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構国際連携部門

博士課程進学促進プログラム（農学生命科学研究科）

農学生命科学研究科では、本研究科に在学する大学院学生を対象として、より深く、かつ幅広い研究活動や、国内外で活躍する研究者や企業の方々とのネットワーク形成を支援することを目的として「博士課程進学促進プログラム」を創設しました。具体的には、大学院学生が希望する海外の大学・研究所・研究機関等への留学を支援する留学支援プログラムや、大学院学生が中心となって、国内外の研究者や企業の方を招待したセミナーやシンポジウム等を企画・開催し、ネットワーク形成を支援するSNP（Scientific Networking Program）プログラムを通じて、大学院学生の様々な活動を支援しています。平成29年4月に「平成28年度博士課程進学促進プログラム報告会」を開催いたしますので、興味のある方は、是非ご参加ください。本プログラムや報告会の詳細については、農学生命科学研究科・農学部のウェブサイトを参照してください。

対象学生：農学生命科学研究科に在学する大学院学生
実施期間：（留学支援）2017年7月～2018年2月末を予定
（SNP）2017年度中に全体セミナーを開催予定
応募方法：留学支援、SNP両プログラムとも書類審査
URL：http://www.a.u-tokyo.ac.jp/index.html
問い合わせ先：農学系教務課学生支援チーム（学生生活担当）

海外大学院とのダブル・ディグリー・プログラム（公共政策学教育部）

東京大学公共政策大学院（GraSPP）は、東京大学の大学院の中で最も留学生比率の高い大学院です。英語のみで学位が取れるプログラム（MPP/IP）や日中韓交流プログラムであるキャンパスアジアがあり、全体の4割を占める約100名、30か国近くからの留学生で賑わっています。またGraSPPには、充実した留学プログラムがあります。GPPN（Global Public Policy Network:世界公共政策ネットワーク）の協定校6校を始め、キャンパスアジアの協定校2校など、12大学と交換留学やダブル・ディグリー・プログラム（DD）を行っています。交換留学またはDDによって毎年20名程度の学生が派遣され、20名程度の留学生を受け入れています。ダブル・ディグリー・プログラムとは、東大で1年、海外の協定校で1年学ぶことによって最短2年で二つの大学からそれぞれ学位を取得することができるプログラムです。DDが出来る協定校は、コロンビア大学（ニューヨーク）、パリ政治学院（パリ）、シンガポール国立大学（シンガポール）、ヘルティ・スクール・オブ・ガバナンス（ベルリン）、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス（ロンドン）、ソウル大学校（ソウル）、北京大学（北京）の8校です。2017年には、オーストラリア国立大学（キャンベラ）ともDDを開始する予定です。詳細については公共政策大学院のウェブサイトを参照してください。

対象学生：公共政策学教育部の大学院学生
説明会：毎年10月（入学前の方の参加も可）
実施期間：交換留学は1クオーターから1年、ダブル・ディグリーは1年
公共政策大学院：http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/index.html
問い合わせ先：exchange@pp.u-tokyo.ac.jp, campusasia@pp.u-tokyo.ac.jp

理学部学生国際派遣プログラム（理学部）

2015年度から開始された理学部学生国際派遣プログラム（SVAP）では、選抜された理学部学生を研究実習（インターンシップ）や短期講座受講（サマースクール等）のために2週間から3ヶ月程度の期間海外の大学や研究機関に派遣しています。応募を希望する学生は、興味のある分野の研究を行っている海外の教員や研究者に自力でコンタクトを取り、インターンシップの受入許可を得るか、あるいは参加したい海外のインターンシップや短期講座のプログラムを見つけて応募等の必要な手続きを行った上でSVAPに応募します。書類審査と英語による面接を経て採択されたSVAP派遣生は、自分で組み立てた渡航計画に沿って、理学部の経済支援のもと、海外での研究や講座受講を体験します。これまでの派遣生は、アメリカやイギリス、ドイツ、フランスなどの様々な大学や研究機関でインターンシップやサマースクールに参加し、充実した研究や学修の体験を得て帰国しました。その様子の一部は、以下のフェイスブックページで読むことができます：https://www.facebook.com/UTokyo.SVAP/
ハードルの高いプログラムですが、その分、プログラムへの参加を経て大きく成長することができます。また、自分で行き先も期間も決められる自由度の高さも好評です。意欲的な学生の応募を歓迎します。

対象学生：理学部学生
実施期間・時期：5月～3月の間の2週間～3ヶ月間（応募者自身が決定）
応募方法：応募書類提出（1月下旬～2月上旬頃締切）
　　書類・面接審査により決定
URL：https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/offices/ilo/svap/application.html
問い合わせ先：ilo.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

教養学部前期課程　主題科目「国際研修」

主題科目「国際研修」は、前期課程の学生が、異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とする授業です。授業内容としては、（1）海外教育機関との共同プログラム、（2）現地の学生との合同見学・合同実習等を含む短期の海外研修、（3）海外の学生との合同国内研修、といった様々な活動があります。そのような機会によって得られる成果が、主題科目の単位として認定されます。

「国際研修」は、6～8月（9月上旬を含む）、1月末～3月に実施されます（海外に渡航する前に、通常のセメスター／ターム中に事前講義を実施する場合もあります）。「国際研修」の受講にあたっては、海外渡航経験の有無は問いません。「国際研修」はむしろ、学生にとってのはじめての海外経験を、後押しする科目です。進んで自分の視野を開こうとする、学生の積極的な参加姿勢がのぞまれます。

なお、授業によっては、参加者の選抜を行ったり、ある水準以上の語学力を求めたりする場合があります。学生が負担する費用については、授業によって異なるので、詳細はそれぞれの授業のシラバスを参照し、ガイダンスで説明を受けて下さい。ガイダンスはA/Sセメスター開始直後に実施されますので、Global Komaba（http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp）のウェブサイトに掲載されるスケジュールをご確認の上、是非ご参加ください。

2017年度6～8月は以下の授業の実施が予定されています。

講義題目	研修地
UTokyo Summer Internship Program in Kashiwa (UTSIP Kashiwa)	日本
Hungary as a Land of Waters	ハンガリー
ソウル大学校サマープログラム	韓国
EUの現状と課題	ドイツ
ボン大学ドイツ語サマースクール	ドイツ

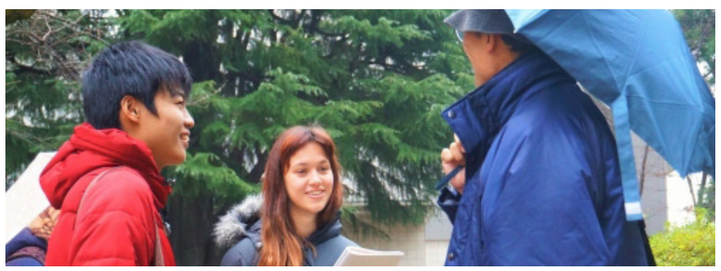
＊上記の予定は変更される場合があります。
このほかにAセメスターには、オーストラリア、マレーシアでの研修、英語力強化のための集中研修等、検討中の企画もありますので、シラバス、またはGlobal Komabaのウェブサイトで確認して下さい。
＊本科目についての問い合わせ先:教養学部 国際交流センター グローバリゼーションオフィス 21KOMCEE West B1F
（go@global.c.u-tokyo.ac.jp 国際研修担当・櫻井）

プログラム参加者の声

UTokyo/ANU Exchange in Canberra/Kioloa, E.U.（文I・1年）

外国に行ってただ英語を学ぶだけでなく、講義やフィールドトリップを通して英語で学べる点に興味を持ち、参加を決めました。コースの内容は美術から環境問題と多岐にわたり、大学で学んだことのない学問分野に触れることができました。また、オーストラリア国立大学（ANU）の学生と一日のほぼすべての時間をともに過ごすことによって、考え方や習慣、文化が違う学生とどのように良い関係を保つかということを自分なりに考え実行することができたと思います。

このコースで何を達成したいかを意識して参加すれば、必ず自分のためになる経験を積むことができると感じました。困ったことや自分で考えてもわからないことを相談できるTA（ティーチングアシスタント）さんや優しい先生方のおかげで、有意義な数週間を過ごすことができました。



8. 学内でできる国際体験

東京大学では100以上の国と地域出身の約3,000名の留学生が学んでいます。キャンパス内でも国際体験ができる機会が数多くありますので、留学の準備や国際交流の機会として活用しましょう。以下に一例を紹介します。

IARU Global Summer Program東京大学開講コース

東京大学は、例年7月頃、IARU Global Summer Programにより、世界のトップレベル11大学の学生を受け入れる英語プログラムを実施しています。

以下の東京大学において開催されるコースは、学部3年生以上の本学学生は集中講義として通常の授業と同様に受講可能となる予定です。(教養学部前期課程の学生は履修できません。)海外大学の学生も東大生との交流を希望しており、また英語での授業のため留学の準備としても効果的です。

- Sustainable Urban Management(工学部開講)
- Nanoscience(工学部開講)
- Japan in Today's World(法学部開講)

※開講時期・内容については授業カタログを参照のうえ、参加を希望する場合は履修登録時に履修手続を行ってください。他学部聴講となる場合は、所属学部・研究科の規則により履修可能かどうか確認してください。

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)

「スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)」は、英会話に慣れたい、英語力を向上させたいという学生向けのプログラムで、東大生であればどなたでも受講可能です。日常会話、プレゼンテーション、ディスカッション、TOEFL対策等さまざまなコースがレベル別に提供され、比較的低価格で受講できます。

外部英語学校から経験豊かなネイティブ・スピーカー(TOEFL講座は一部日本人講師)を招き、毎年春と秋に10週間ずつ本郷キャンパスで開講します。みなさんも週1-2回、集中して英語に取り組んでみませんか。

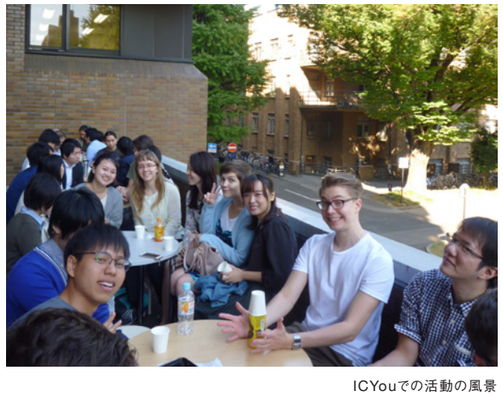
http://www.sel-ut.com

ICYou(International Cafe for You)

ICYouは、工学系研究科日本語教室が主催する多文化・多言語国際交流の場です。東京大学で学ぶ留学生と日本の学生が、専門や国を超えて出会う気軽な集まりです。

学期中、毎週木曜日のお昼に工学部11号館の2階テラスで開催しています。リラックスした雰囲気で情報交換や意見交換ができ、また新しい友達にめぐり合えるチャンスです。コーヒーと紅茶を用意していますので、温かい飲み物で一息つきながら、またはランチを食べながらの肩肘張らない国際交流ができます。アニメの話題から突っ込んだ議論まで、英語でも日本語でも言語の縛りはありません。本郷キャンパスでちょっと身近な国際交流に参加してみませんか。スケジュール等の詳細は以下でご確認下さい

http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/



ICYouでの活動の風景

国際センターによる国際交流活動の例

東京大学国際センター各オフィスでは、さまざまな国際交流活動を実施しています。

(1) 国際センター本郷オフィス

http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/ic/index_j.html

留学生との交流を目的としてFACE(Friendship And Cultural Exchange)プログラム、中国語茶話会、言語交換プログラムなどを実施しています。また、国際交流を目的としたキャンパス内の学生活動の情報提供等も行っています。詳細は以下でご確認ください。

http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/ic/face/face02_info02_j.html

(2) 国際センター駒場オフィス

留学生とともに日本伝統芸能を鑑賞したり文化体験するイベントから、「ドッヂビー&交流会」といったスポーツイベントまで、様々な国際交流の場を提供しています。また駒場Ⅱキャンパスでは、毎週火曜日に国際交流を目的としたInternational Gatheringを開催しています。詳しくは、以下のHPをご覧ください。

http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp

(3) 国際センター柏オフィス:

http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/

- 1対1交流プログラム

柏キャンパスで学ぶ留学生、研究等で招聘された外国人研究者およびその家族と、日本人ボランティアが1対1で交流するためのプログラムを実施しています。基本的に日本語での会話を通し、日本語の上達、日本の文化・歴史を知ること等を目的としたものです。詳細は以下でご確認ください。

http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/event/onetoone.html

- 英語講座

大学院生及び職員を対象に、平日に柏キャンパス内の教室を利用して英語講座を開講しています。英会話講座、科学技術英語講座の他にTOEFL集中講座やテクニカルライティングセミナーも受講できます。詳細は以下でご確認ください。

http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/language/englishlecture.html

グローバリゼーションオフィス(総合文化研究科・教養学部)

グローバリゼーションオフィスでは、駒場キャンパスで学ぶ皆さんが、国内外で様々な国際経験を積めるようサポートする活動を行っています。活動の大きな柱は、海外を知る、海外で学ぶ、国際交流の3つです。

世界の様々な国や地域について広く見識を深めたい学生のためには、大使館員や海外出身の教員が、各国事情を語るカジュアルな講演会やセミナーを開催しています。過去にはイタリア、スウェーデン、オーストラリア、アメリカ、フランス、ブラジル、トルコなどの大使館員の方々が様々なテーマでレクチャーを行いました。

国際交流に興味がある学生には、留学生や日本人学生が参加できるフィールドトリップや体験型セミナーを開催しています。例年秋には留学生と共に学ぶ浅草・上野フィールドトリップを行っています。その他、グローバリゼーションオフィスと連携しながら交流活動や留学生支援を行う学生団体TGIFは日本人学生や留学生が参加できる生協前での昼食会(毎週木曜日)や様々な交流イベントを企画・実施しています。

もっと積極的に、留学生をサポートしたいという学生にはGO Tutorという仕事もあります。チューターの任務は主に英語プログラムで学ぶPEAK1年生や交換留学生を学習面、生活面でサポートする事で、活動は主にグローバリゼーションオフィスのラウンジで行います。年2回、学期初めに新メンバーを募集しています。

海外留学に興味のある学生向けには、ミニ留学相談会、TOEFL/IELTS説明会、留学成果発表会などを開催しています。オフィスでは、留学関連資料を閲覧でき、教職員や学生留学アドバイザーが随時個別の留学相談にも応じています。また交換留学プログラムで海外派遣が内定した駒場在籍の学生には年に2回、留学前研修を実施しています。

短期に海外で学びたい学生には、国際研修プログラムを提供しています。国際研修とは、異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とした短期の海外研修プログラムです。現在までに、オーストラリア、ギリシャ、フランス、メキシコ、イタリア、ドイツ、トルクメニスタン、ハンガリーなどで研修が行われました。

今回ご紹介したイベント、プログラム、活動に興味を持った方は是非ウェブサイト、Facebookをチェックし、情報配信サイトにご登録下さい。

http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp

https://www.facebook.com/GlobalKomaba

Global Studies Program

Global Studies Programは、教室での学びを通してアカデミックな国際交流の実践力を養うためのプログラムです。教養学部後期課程の学融合(学科横断型)プログラムの一つですが、本プログラムで提供されている科目は他学部の全ての学生に開かれており、科目受講が可能です。文化の多様性、多元化が進む現代において、他者や異文化に対して創造的に開かれた眼差しを獲得し、対話力を鍛えることの重要性はますます高まっています。このプログラムでは、文化的・社会的背景の異なる学生たちと共に学び、活動の場を共有することを通して、国際的な視野を身に着け、多言語、多文化の中で活躍できる人材の育成を目指します。「グローバル教養実践演習」では海外の学生とのディスカッション、グループワーク、近郊地域へのフィールドワークなどを通して共同演習を行います。特に留学を考えている学生には、キャンパスにいながらにしてプレ留学体験ができる場ともなっています。

9. 学外の海外インターンシップ、ボランティア等

海外インターンシップとは

海外の企業、国際機関または教育機関等で、主に自身のスキルアップを目的として研修生として働くことです。

企業・国際機関・教育機関等でのインターンシップ

海外の企業や国際機関・教育機関等での実務を通じて、専門知識やビジネススキルを身につけ、実用的な英語力や国際感覚を養うことが期待されます。有給と無給のタイプがあります。

大学・研究機関等でのインターンシップ

主に理系の学生を対象にした、自身の専門分野の知識やスキルを活かすことのできる科学技術に関係するインターンシップもあります。一定の期間、海外の機関（大学・研究所・企業の研究機関等）で働きます。自身の専門性を高めるとともに、国際社会への適応力を養います。有給（滞在費支給）の場合が多いです。

〈海外インターンシップの例〉

プログラム名	実施国・地域	実施時期	募集締切	備考
IARUサステイナブルキャンパス交換学生	年により異なる	8～9月頃	5～6月頃	IARU加盟大学のいずれかでサステイナブルキャンパス活動に従事
香港大学Learn, Live and Intern in China（LLIC）プログラム	香港	6～8月頃	1月頃	1週間の授業と8週間のインターンシップ（香港または中国本土の企業）を組み合わせたプログラム
ams（オーストリアマイクロシステムズ）海外インターンシップ	オーストリア	8月頃～1年間	5月～6月頃	高性能アナログIC技術の開発・製造分野に携わるインターンシップ・プログラム

※他にも多数ありますので、Go Global ウェブサイトを参照してください。
※各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報はウェブサイト等で確認してください。

国際ボランティアとは

世界各国における経済・社会の発展、復興への寄与、友好親善・相互理解等を目的として現地で活動することです。

国際ボランティアの魅力

留学をする場合にかかる費用や時間、インターンシップにおいて求められる語学力や経験と比べると、国際ボランティアの場合は、より参加しやすくなっている場合もあります。自発的な意思により社会に貢献する活動を共に行い交流することで、参加者間で文化や言葉の壁を越えて交流を深めることができます。

国際ボランティアによる渡航先の安全性

各国際ボランティアの実施団体は実施国の安全面に配慮していますが、渡航先には発展途上国が多いということから一概に安全とは言い切れません。実施団体によるオリエンテーションや指示、東京大学の『海外渡航危機管理ガイドブック』などをよく理解し、渡航先ではいつも以上に気を配り安全に過ごせるよう気をつけましょう。外務省ホームページ“各国安全情報”や厚生労働省検疫所ホームページ“海外で健康に過ごすために”等の情報を得ることが必要です。

〈国際ボランティアの例〉

プログラム名	実施国・地域	実施時期	募集締切	備考
国際教育交換協議会（CIEE）によるボランティアプログラム	プログラムによる	プログラムによる	プログラムによる	CIEEが提供するボランティアプログラムは約30カ国で800のプロジェクトと広範囲に及びます。
日本国際ワークキャンプセンター（NICE）によるボランティアプログラム	プログラムによる	プログラムによる	プログラムによる	1990年の設立以来、国内・海外90カ国でワークキャンプ等各種事業を実施しています。自分の希望に合ったプログラムを選ぶことができます。

※他にも多数ありますので、Go Global ウェブサイトを参照してください。
※各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報はウェブサイト等で確認してください。

国際協力学の観点から

国際協力学分野を希望する皆さん、または将来国連等の国際的な機関で国際貢献に携わる職を得たいと思っている皆さんにも海外でのインターン・ボランティアは貴重な体験となることと思います。各種プログラムを通じて座学だけでは得られない現場の実態を知る大変貴重な機会となるでしょう。

※他にも多数ありますので、Go Global ウェブサイトを参照してください。
※各項目は、あくまで目安として簡潔に記載しています。募集開始、締切、開催内容等は毎年異なりますので最新情報はウェブサイト等で確認してください。

〈国際協力プログラムの例〉

プログラム名	実施国・地域	実施時期	募集締切	備考
JICA 短期ボランティア（青年海外協力隊）	アジア・アフリカ、中南米・大洋州、中東の約80カ国	1年未満	5月・8月・11月・2月	協力分野：計画・行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉の9部門
JICAインターンシップ・プログラム（コンサルタント型）	応募時期による	受入機関によるが概ね1ヶ月程度	10月頃	JICA事業の現場における実務の機会を通じて開発コンサルタント実務及び国際協力に関する理解を深めることができるプログラム
ADB（アジア開発銀行）インターンプログラム	ADB本社（フィリピン・マニラ）	プログラムによるが概ね半年以内	プログラムによる	ADBでのインターンはプロジェクトベースで実施される。よって携わりたいプロジェクトを見つけるためには定期的な情報収集が必要。

主な海外インターンシップ・ボランティア実施団体

イアエステ（IAESTE）

イアエステは、理系の幅広い分野を対象として、質の高い国際インターンシップを実施する世界最大の国際プログラムです。このプログラムは、世界規模で国連やユネスコなどと協調して事業を進めてきており、世界100カ国近くの多数の大学、政府組織、非政府組織、学生ボランティアが活動を支えています。1948年の設立以来、総計35万人以上の学生を送り出してきました。その日本国内組織であるイアエステ・ジャパンは、1964年に東京大学で設立され、東京大学を含む全国の大学から学生が参加しています。

派遣学生は、海外の企業や研究機関の一員として勤務・交流し、国際社会への適応能力を磨くとともに、自分の将来ビジョンを養うことができます。派遣先はヨーロッパの国々を中心に、アジア、アメリカなど世界各国をカバーしており、勤務先から滞在費相当の給与が支払われます。研修期間も多様で8～52週間の幅があり、夏季休暇を利用し休学することなく参加が可能です。あなたも、いま学んでいる（これから学ぶ）専門の力を海外で展開して、世界の人々との交流に挑戦してみませんか。詳しくは、http://www.iaeste.or.jp/をご覧下さい。

www.iaeste.t.u-tokyo.ac.jp

国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部

国際教育交換協議会（CIEE）は、教育を通して国際交流を図り人類の相互理解を促進することを目的に1947年に創設された非営利法人で、国際交流の世界的リーダーです。世界42か国に600名のスタッフを擁し、年間約4万人の若者がCIEEのプログラムに参加しています。日本代表部は、新しい時代のニーズにも応じて、主に大学生を対象とした海外でのボランティアやインターンシッププログラム等を提供しています。また、もうひとつの事業として米国テスト機関であるEducational Testing Service（ETS）の委託を受け、TOEFL®テスト日本事務局として、TOEFLテストの広報やセミナーの開催など受験者や各教育機関に対し、最新の情報を提供しております。

CIEEが提供する海外ボランティアは、教育体験、環境保護、社会福祉、地域サポートなど多岐に渡り、夏あるいは春休みなどを利用して参加できる2～4週間の短期プログラムが中心です。実践的な英語コミュニケーション能力を鍛え、異なる文化やことばをもつ世界の人々との出会いの大切さや感動を実感できるプログラムを提供しています。CIEE東京事務所（最寄駅:表参道又は渋谷）では、ほぼ通年で説明会を実施しておりますので、興味がある方は、説明会（予約不要）にご参加下さい。

www.cieej.or.jp

国際協力機構（JICA）

国際協力機構（JICA）では、青年海外協力隊などのボランティア事業を実施しています。青年海外協力隊は、途上国の住民と直接交流しながら、その国が抱える課題に取り組み、経済や社会の発展に貢献することを目的としています。募集は春と秋の年2回行われ、派遣国はアフリカ・アジア・中南米、中東地域の約80か国で、活動職種も120以上と多岐にわたります。応募対象者は20～39歳の日本国籍を持つ方です。JICAでは、協力隊員が円滑に活動を行うために、現地事務所にサポートスタッフを配置しているほか、健康面・安全面での支援体制を整えています。また、派遣国との往復渡航費、現地生活費等の経費を負担しています。

開発途上国での活動のなかで度重なる困難や逆境を乗り越えた協力隊員は、その経験を通じて逞しい精神力・忍耐力、コミュニケーション能力を培い、グローバルな視野だけでなく、人間的にも大きく成長して帰国します。近年は、企業や自治体等が協力隊経験者をグローバル人材として高く評価し、積極的に採用する事例が増えています。

www.jica.go.jp/volunteer/index.html

日本国際ワークキャンプセンター（NICE）

NICEは、「カラフルでヘルシーな世の中」を目指して日本・世界約90ヶ国で各種ワークキャンプを主催・派遣する国際ボランティアNGOです。ワークキャンプとは、その地域の抱える固有の問題を解決するため、世界中から集まった仲間と1～3週間寝食を共にしながら、メンバーや地域の人たちと共に行うボランティア活動です。2015年は1065人の日本人ボランティアが海外・日本各地で活躍しました。カンボジアの学校での子どもへの英語教育、ベルギーでの障がい者スポーツ大会運営の手伝い、また熊本県の阿蘇で被災地の復興支援をするプログラムなど、年間約3000のプログラムが用意されています。

「こんなにエキサイティングな経験は初めてで、この経験を終えてすごく自信がついた」「現状を目の当たりにし、今後自分ができること、しなければいけないことを考えていきたい」といった声が参加者から届いています。必要なのは、やる気と行動力、そしてカタコト以上の英語力のみです!国籍の違う仲間とともに生活し、笑い、語り合うからこそ得られる成長が待っています。

www.nice1.gr.jp

10. 卒業後の大学院留学

ここまで、交換留学、3ヶ月未満の留学、個人応募のプログラムといった、東京大学在学中の留学について紹介してきました。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への留学についても情報提供などを行っています。

海外の大学院の種類

海外の大学院には大きく分けてGraduate Schoolと、Professional Schoolの二つの種類があります。Graduate Schoolでは、東京大学在学中に学んだ学術研究をより専門的に深めることができます。一方、Medical、Law や Businessに代表されるProfessional Schoolでは、職業に直結した教育を受けることができます。

大学院のシステム

世界各国で教育システムが異なるように、海外の大学院のシステムは日本とは異なることが多いので十分な情報収集が必要です。

大学院レベルで提供される学位は、修士号（Master's Degree）と博士号（Doctoral Degree or Ph.D.）があります。

修士課程は、通常1～2年間の課程です。大きく分けると「アメリカ型」と「イギリス型」に分けられ、その主な特徴は以下の通りです。

アメリカ型：入学時期は8月末～9月が一般的。修了までに基本的には2年を要す。ほとんどの大学が2学期制を採用。

イギリス型：入学時期は9月～10月が一般的。通常1年で修了することができる。ほとんどの大学が3学期制を採用。

博士課程は、通常3～8年間の課程です。プログラムによっては、大学の学部課程を修了後、修士課程を経ず、直接博士課程に出願することも可能です。

大学院留学の情報収集

留学先の国や大学によって制度が異なる場合が多く、学士課程時の専攻と異なる分野での留学も可能なため、事前の情報収集が重要です。東京大学では、以下の方法で情報を入手することができます。

●東京大学Go Globalウェブサイト

「留学プログラム」のページの一覧表で、東京大学宛に案内のあった大学院留学プログラムを随時紹介しています。また、「海外留学等奨学金」のページで奨学金に関する情報も提供しています。（p.40参照）

●説明会等の大学院留学関係イベント

東京大学Go GlobalウェブサイトやSNS（p.34参照）で、海外大学や各国大使館などが主催する説明会等、大学院留学関係のイベントを紹介しています。東京大学と関係の深い大学については東京大学で説明会が行われる場合もあります。

●UT-OSAC

東京大学の卒業生を中心とした団体である、UT-OSAC（Overseas Study Advisory Community, the University of Tokyo）では、海外大学院留学に関する情報提供や説明会等の開催、およびそのサポートを行っています。

UT-OSACウェブサイト: www.ut-osac.org/index.html

海外大学院留学説明会主催者から

原健太郎：2010年工学系航空宇宙工学科修了　プリンストンプラズマ物理研究所所属

学部卒業後に、就職・国内の大学院進学に加えて、「海外の大学院進学」という選択肢を増やしてみませんか？修士・博士課程への長期留学（2～5年）に関する情報は、短期留学プログラムに比べ、未だに手に入れにくいのが現状です。私たちUT-OSACは、東京大学の現役生・卒業生に向けて、海外にいくことが善であるということではなく、キャリア・人生を考える上で一つの選択肢として海外大学院進学に関する情報を提供していくことを目指しています。年2回（夏・冬）の説明会には、100～400名の情熱のある学生・社会人の方々が参加しています。

Asian Future Leaders Scholarship Program（AFLSP）

アジアの若者の学生交流を促進し、将来のアジアの指導者となる人材を育成するために、本学卒業生であるRonald Chao（曹其鏞）氏（1962年工学部卒）により設立されたプログラムです。参加学生に期待されていることは、留学で得た専門知識はもちろんのこと、異文化体験やともに学んだ同窓生など、プログラムで得たものを糧に、将来、異なる文化間の架け橋となることです。本学で対象となるのは、中国・台湾・韓国の各大学（※）へ進学する学生。奨学金支給期間は原則として2年間までで、年間25,000米ドル（授業料、宿泊費、滞在費等のため）が支給されます。奨学生は約3週間のサマープログラムへの参加が義務づけられます。希望する学生は、各大学および奨学金財団へ直接応募する必要があります。詳細はウェブサイトをご参照ください。http://bxai.org/

※清華大学、北京大学、復旦大学、上海交通大学、浙江大学、香港大学、香港科技大学、香港中文大学、国立台湾大学、ソウル大学校

Ⅲ
留学の計画と準備をする

- 留学を成功させるポイント
- 海外留学等奨学金
- 安全と危機管理
- 就職活動

11. 留学の計画と準備・情報収集

留学を成功させるポイント

① 留学の目的を明確にする

自分の専攻分野に関する知識を深めたい、専攻以外の分野を学びたい、語学力を向上させたい、国際的な広い視野を身につけたいなど、留学の目的を明確にしてください。

② 自分に合った留学方法を検討する

留学期間（数週間、1学期、1年、1年以上）、留学方法（3ヶ月未満のプログラム、交換留学、個人留学、卒業後の大学院留学など）を検討してください。

③ 留学のための情報を集める

留学プログラム、留学先の大学、留学資格、留学に要する費用、奨学金、語学試験、必要書類等の情報を集めてください。

④ 語学を勉強し、語学試験を受ける

留学先が定める語学試験を受け、求める基準に達する必要があります。

⑤ 東京大学での学業に励む

留学や奨学金の選考等においては、学業成績も考慮される場合がほとんどです。ただし、語学力・志望理由・学習（研究）計画・面接等も含め、総合的に選考されますので、積極的にチャレンジしてみてください。

情報収集

有意義な留学・国際交流のためには、情報収集が大変重要です。
留学の成否は情報収集が左右すると言っても過言ではありません。
以下のような様々なツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。

各学部・研究科の情報

留学の際の東京大学での学務上の事項（留学中の授業履修・単位・学籍など）、各学部・研究科等独自の海外留学・国際交流については、各部局の担当部署（48ページ参照）で情報が得られます。

東京大学全体の情報

●東京大学 Go Global海外留学・国際交流情報

①ウェブサイト（通称Go Globalウェブサイト）

本ガイドブックよりさらに詳細な情報や最新の情報が掲載されています。
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/
（「東大」「留学」で検索）

②Facebook, Twitter

本部国際交流課からの直接の発信で、留学プログラムや奨学金関連の新着情報を掲載しています。募集期間が短いものもありますので、Facebook・Twitterをフォローすれば、有益な情報を迅速に得ることができます。
Facebook http://www.facebook.com/todai.go.global
Twitter http://twitter.com/todai_global（@todai_global）
（Go Globalウェブサイトのアイコンをクリック）

③Facebookグループ「Todai Go Global Network」

東京大学の在学生・教職員・卒業生が海外留学・国際交流に関する情報を交換できるFacebookの非公開グループ「Todai Go Global Network」があります。積極的にご活用ください。
※参加にあたっては本学関係者であることの認証手続きが必要です。参加方法はウェブサイトをご参照ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/contacts/index.html
（Go Globalウェブサイト→「質問・相談」ページ）

④過去参加学生による体験記

Go Globalウェブサイトには学生による詳細な体験記が掲載されています。経験者の生の声も参考にしましょう。
（Go Globalウェブサイト→「留学プログラム」のページ）
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/program/experience.html
（Go Globalウェブサイト→「海外インターンシップ・国際ボランティア」のページ）
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/internship/experience.html

●Go Global海外留学情報室

東京大学国際センター本郷オフィスでは、「Go Global海外留学情報室」を開設し、海外留学に関する情報提供・相談などを行っています。開室時間・月～金 10:00-17:30（祝日を除く。臨時閉室日についてはウェブサイトを確認してください）
場所：本郷キャンパス第二本部棟1階 インフォメーションサービスルーム（龍岡門そば）※2017年度中に移転予定
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/ic/students/goabroad.htm

●留学・国際交流関連イベント

東京大学本部では、年に1回の大規模な留学フェアに加え、年に数回、比較的小規模な留学・国際インターンシップ・海外ボランティア等の説明会を開催しています。担当者や経験者の話を直接聞くことができます。
また、海外大学や各国大使館などが主催する留学関連イベントも多数開催されていますので、目的に応じて参加してみてください。
留学・国際交流関連イベントの情報もGo Globalウェブサイトやや Facebook, Twitterなどで紹介しています。
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/event/
（Go Globalウェブサイト→「イベント」ページ）

留学先大学の情報

留学先大学のウェブサイトを利用し、必要な語学条件や履修可能な授業、費用などについて、自らの責任でしっかり確認することが大切です。

その他

日本学生支援機構のウェブサイトでも、海外留学に関する体系的な情報が得られます。また、各国大使館のウェブサイトも貴重な情報源です。
独立行政法人日本学生支援機構 海外留学情報ページ
http://ryugaku.jasso.go.jp

留学にかかる費用

留学一般について

国・地域によりますが、一般的に留学にはおよそ200～300万円以上の学費・生活費等がかかります。日本での学費・生活費と比較して検討してみましょう。
留学のための奨学金が各種ありますので、情報を集めて利用しましょう。詳細は40ページをご覧ください。奨学金の選考では成績が考慮される場合が多いため、東京大学での学業に真剣に取り組むことが大切です。また、多くの国でアルバイトはビザの制限により禁止されていますので、余裕を持った資金計画を立てましょう。

東京大学を通じて申し込むことによるメリット

交換留学の場合は、原則として留学先に授業料を収める必要はなく、東京大学に東京大学の授業料を納めることになります。

交換留学以外でも、東京大学を通じて申し込むプログラムでは、プログラムの実施機関から東京大学の学生向けの費用の割引や免除、参加費補助が受けられるケースがあります。

交換留学や短期のサマープログラムなど、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体等からの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件（成績・家計基準等）や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。詳しくは各プログラムの募集要項を参照してください。

実際の留学費用

実際の留学費用は、プログラムや学生の奨学金受給状況により異なります。ウェブサイトに記載されている留学体験記（35ページ参照）では、各学生の実際に留学に要した費用が報告されていますので参考にしてください。

ある学生の例

渡航期間：6か月
渡航費：往復14万円
渡航中に一時帰国する場合などは当然その分多くかかります。
授業料：66万円（渡航先大学の授業料（交換留学ではない））
交換留学の場合は授業料は東大の授業料だけで済みます。
教科書代：2万円
家賃：42万円（月7万円）
食費：12万円（月2万円）
日用品代：2.5万円
服・文具・雨具・自転車など
娯楽・交際費：6万円
保険料：6万円（月1万円）
渡航先での病気・トラブルに備え保険加入はしましょう。大学主催のプログラムでは大学指定の保険加入を義務付けているプログラムも多くあります。
通信費：2.4万円（月0.4万円）
スマートフォンの利用など

合計：152.9万円
奨学金：48万円（月8万円）

自己負担額：152.9万円－48万円＝104.9万円

いかがでしょう? 留学の計画の参考にしてみてください!

語学検定試験の受験

留学する場合、留学先大学が求める語学能力の基準を満たす必要があります。語学能力試験は、状況により、受験の予約が取りにくかったりする場合があります。また、募集の留学プログラムによっては、募集開始から締切までの期間が非常に短い場合もあります。

締切日までにスコアを取得できない学生が例年見受けられますので、留学を考えているのであれば早めに受験し、常に有効期限を満たすスコアを所持しておくようにしましょう。

英語圏への留学

英語圏の大学へ留学するにはTOEFL iBTやIELTS(Academic Module)のスコアの提出が一般的です。東京大学本部が担当する留学プログラムでも、TOEFL iBTまたはIELTS(Academic Module)の提出しか認めないプログラムが多くなってきています。
※TOEICや英検は日本の就職活動等では広く用いられますが、大学への留学の際の語学能力試験として認められていないケースも多いため、注意してください。

	TOEFL iBT	IELTS(Academic Module)
概要	米国を始め世界各国の大学等で英語力の証明として利用されており、130を超える国々の9,000以上の大学、機関、その他の団体がTOEFLテストスコアを受け付けている。	英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの教育期間で受け入れられており、米国でも広がっている。AcademicModule（大学や他の高等教育機関への出願のためのテスト）とGeneral Training Module（一般的な生活、仕事や、移住関係に関わる英語のテスト）の2種類がある。
スコア	0～120（1ポイント刻み）	1.0～9.0（0.5ポイント刻み）
試験日	ほぼ毎週末、年間50回以上	東京は毎月3回程度実施
受験料	US　$235（通常申込時）	25,380円
スコア有効期限	2年間	2年間
URL	https://www.ets.org/jp/toefl/	http://www.eiken.or.jp/ielts/

※2014年4月より、英国ビザ申請にIELT for UKVIスコアが必須となりました。
（TOEFL・TOEICは利用不可となります。）学生ビザが必要となる英国留学を考えている学生は余裕をもってIELTSの受験をすることをおすすめします。
※上記の情報は2017年現在の予定であり、変更される場合があります。

英語圏外への留学

英語以外の言語についても、留学先大学によって語学能力の基準が設定されている場合があります。留学先によっては語学証明書類を提出しなければならないこともありますので、事前に留学先大学の語学要件をよく確認しましょう。

英語圏以外の語学能力試験　一例

語学能力試験	言語
HSK	中国語
TOPIK/ KLPT	韓国語
DELF-DALF/TCF/TEF	フランス語
DELE	スペイン語
DSH/TestDaF	ドイツ語

※上記の試験は一例であり、必須ではありません。

留学等における学籍・単位認定など

留学等のため海外へ渡航する場合には、所属する部局の担当部署に事前に相談してください。東京大学での学籍上の手続き（留学願、休学願、海外渡航届など）が必要な場合がほとんどです。学籍上の取扱いによって、授業料納入の有無や単位互換の可否が異なりますので注意してください。

[海外渡航の際の主な学籍上の手続き]

●「留学」: 留学の手続きをとる
●「休学」: 休学の手続きをとる
　上記の手続きをとらず、海外渡航する場合は、海外渡航届などの手続きを行ってください。（例:夏季休業期間を利用し、海外大学に語学留学する場合など）

[海外の大学で修学する場合の、学籍上の「留学」と「休学」の違い]

　「留学」の手続きによる場合と、「休学」の手続きによる場合の違いについて、右に大まかなチャートを示しますので、参考にしてください。

※交換留学の場合は、「留学」の手続きとなります。
※留学先大学で取得した単位の本学における認定については、事前に留学時の所属部局の担当部署に相談してください。
※以下は一般的な情報です。学部・研究科等により異なる場合があります。

	「留学」の手続きによる場合（交換留学）	「留学」の手続きによる場合（交換留学以外）	「休学」の手続きによる場合
留学先大学での「単位」取得	可	可	可
留学先大学での「学位」取得	不可	不可	場合により可
留学先大学での授業料	払わない	払う	払う
東京大学での授業料	払う	払う	払わない（ただし、休学開始時期にもよるので注意が必要）
修業年限	算入される	算入される	算入されない
本学での単位認定	可（ただし、所属学部・研究科が承認した場合）	学部・研究科により異なる	学部・研究科により異なる

外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則（学部学生）

《東京大学学部通則》

第3章 留学

■留学
第14条の2
　学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学[注釈1]することなく外国の大学において授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。
2 前項の規定により外国の大学において修学する期間は、おおむね1年を限度とするものとする。

■単位の認定
第14条の3
　学部長は、学生が留学の期間において修得した授業科目及び単位数については、前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えない範囲で、本学における相当する授業科目及び単位数を修得したものとみなすことができる。

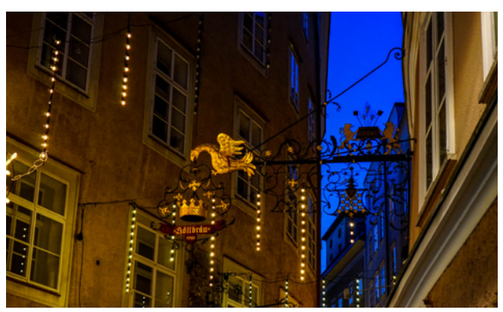
■申請手続
第14条の4
　留学の許可及び単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書[注釈2]を学部長に提出しなければならない。
2 留学許可及び単位認定等の申請手続については、各学部の定めるところによる。

■休学期間中に外国の大学において取得した単位の取扱い
第14条の5
　第14条の2の規定にかかわらず、学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学において授業科目を履修し取得した単位を、本学における相当する授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、第14条の3の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えないものとする。
3 前2項の規定による単位認定等の申請手続については、前条の規定を準用する。

注釈
1 休学して海外修学する場合は、休学期間は在学期間には含まれないため、その分、卒業の時期が遅れることになる。なお、休学期間中に海外の大学等で単位を取得した場合の本学における単位の取扱いは、第14条の5の規定により各学部の定めによるので、教務担当窓口で確認すること。
2 「留学許可願」を担当窓口に提出する。

留学についての詳細は、留学時に在籍する学部の担当口に事前に相談し確認すること。

※大学院学生については以下を参照のこと。
●東京大学大学院学則　第28条（留学）
●東京大学大学院専門職学位課程規則　第23条（他の大学院における授業科目の履修等）



外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例

（2017.04.01現在）

※詳細については、各学部・研究科等の規則や、教務担当窓口で確認すること。

学部

法学部

法学部において開設されている授業科目に相当する場合には、これを「相当科目」として認定する。相当科目に該当しない場合において相当と認めるときは、随意科目として認定する。なお、対象とする大学は別に定めがある。

工学部

当該学科の審査により、科目配当表の単位として認定することができる。また、それ以外の科目についても学科で必要と認めた場合には、卒業単位に算入することができる。

文学部

外国の大学で修得した単位の認定は、交流協定のある大学に「留学」した場合及び休学して外国の大学に「修学」した場合に限る。学部教務委員会において適切と判断された場合は、必修科目または必修科目以外の科目に認定され、卒業単位に含めることができる。

理学部

シラバス、成績等により審査をおこない、東京大学理学部規則別表に定める授業科目及び単位数に振り替えることができる。また、選択科目として、卒業に必要な単位数に含めることができる。

農学部

留学先大学の成績証明書、時間割およびシラバス等を指導教員又は学部委員に提出し単位認定を申請した場合、所属専修および教育会議の議を経て認定する。

経済学部

単位の認定・振替は、学生交流協定に基づき「留学」の身分により派遣された場合に限る。学部教務委員会・学部教授会で適切と判断された場合、本学部の基準で単位数を換算の上、単位の振替・認定が認められる。学則・内規に沿って運用をしているので、単位の認定・振替を希望する者は、留学生・国際交流担当チームへ事前に相談に来ること。

教養学部（前期課程）

外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず事前に教務課前期課程係（PEAK生は国際化推進係）で説明を受けること。

教養学部（後期課程）

協定締結校に留学等をして取得した単位については、所定の期間内に単位認定を申請した場合、定められた上限単位数まで卒業単位として認定を受けることができる。詳細については「教養学部便覧」を参照のこと。

教育学部

原則として、全学学生交流に基づく交換留学協定校等、本学からの推薦に基づく派遣先大学に限る。選択科目の単位として一括して認定することができる。

薬学部

単位認定を希望する者は、事前に国際交流室に相談すること。

大学院

法学政治学研究科

〈総合法政専攻〉においては、学生が留学先大学で単位を取得した科目の認定には、学生からの単位認定申請にもとづき、学務委員会で判断する。なお、休学中に外国の大学院において取得した単位についても、認定することは可能である。

医学系研究科

外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、修士課程及び博士課程を通じて10単位を越えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、医学部大学院係へ相談すること。

工学系研究科

外国の大学院に「留学」して、当該大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し、修得した単位は、申請により、本研究科における相当する科目・単位として、修士及び博士後期課程を通じて10単位まで認定される。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間及び採点基準を考慮して、本学の基準で単位数及び成績の換算をする（そのまま本研究科と同じ単位数として換算されるとは限らない）。※休学して外国の大学院に「修学」した時の、当該大学院で修得した単位は、本研究科修了単位には認定されない。

人文社会系研究科

留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目及び単位は、修士課程及び博士後期課程を通じて10単位を限度として、自由選択科目の単位に算入することができる。なお、休学の理由は「海外修学」に限る。

理学系研究科

外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し単位を取得した場合、修士課程及び博士後期課程を通じて、10単位を超えない範囲で本研究科において単位を認定することができる。希望者は、渡航前に専攻事務室で手続に関する指示を受けること。

農学生命科学研究科

所属専攻および教育会議の議を経て認定する。手続きは留学前に行うこと。認定範囲、提出書類等は教務課へ相談すること。

経済学研究科

単位の認定・振替は、学生交流協定に基づき「留学」の身分により派遣された場合に限る。教育会議にて適切と判断された場合、本学部の基準で単位数を換算の上、単位の振替・認定が認められる。学則・内規に沿って運用をしているので、単位の認定・振替を希望する者は、留学生・国際交流担当チームへ事前に相談に来ること。

総合文化研究科

留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において取得した単位は、10単位を超えない範囲で本研究科の授業科目及び単位として認定することができる。単位の認定を希望する場合は、留学又は休学期間終了後に総合文化大学院係で必要な手続きをとること。授業科目及び単位の認定は、認定希望者からの申請を専攻等で審査のうえ、研究科教育会議で決定する。なお、本研究科の授業科目及び単位の認定の申請ができる休学の理由は、原則として海外修学のみとする。

教育学研究科

留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において取得した科目及び単位は、研究科教育会議の議を経て、本研究科における選択科目に相当する科目及び単位として認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士・博士課程を通じて10単位を超えないものとする。単位の認定を希望する場合は、学生支援チームにあらかじめ相談すること。

薬学系研究科

単位認定を希望する者は、事前に国際交流室に相談すること。

数理科学研究科

単位認定を希望する者は、事前に教務係に相談すること。

新領域創成科学研究科

外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、修士課程及び博士後期課程を通じて10単位を越えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、新領域創成科学研究科教務係へ相談すること。

情報理工学系研究科

当該専攻の審査により、10単位を限度として修了単位に認定することができる。

学際情報学府

留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目及び単位は、本学府の承認を得ることにより、修士課程及び博士課程を通じて、10単位を越えない範囲で、他研究科科目の単位として、認定することができる。単位認定を希望する者は、事前に学務係に相談すること。

公共政策学教育部

公共政策学教育部において、教育上必要とみとめる時は、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲内で認定することができる。

12. 海外留学等奨学金

留学や海外活動、特に欧米や長期での海外滞在には高額な費用がかかります。留学・海外活動の期間や目的などによって対象が異なる様々な奨学金があります。各自の留学・海外活動の内容に沿った奨学金に応募し支援を受けることが可能です。

奨学金の種類

まず留学・海外活動の期間によって、概ね3ヶ月以上、3ヶ月未満と奨学金支給の対象が分かれています。さらに奨学金によっては交換留学、学位取得、その他（インターンシップ、ボランティア等）などその種類や目的を限定している場合があるので注意しましょう。

また東京大学独自の奨学金だけでなく、外部団体が公募する奨学金にも応募が可能です。外部団体の奨学金には、東京大学を通じて応募するものと、個人で直接応募するものとがあります。

期間	種類・目的	応募方法
✓3ヶ月以上	✓学位取得を目的としない留学（交換留学、Visiting student programなど）	✓東京大学への応募（東京大学独自の奨学金）
✓3ヶ月未満	✓3ヶ月未満の留学（サマープログラムなど）	✓東京大学を通じた外部団体への応募
	✓学位取得を目的とした大学院留学	✓外部団体への直接応募
	✓その他の海外体験（インターンシップ・ボランティアなど）	

奨学金の例

留学一般について

留学する場合は、東京大学独自の奨学金および外部団体の奨学金へ応募することができます。東京大学は「東京大学海外派遣奨学事業 海外留学等奨学金」を設け、学生の留学・海外活動を支援しています。留学の期間により、短期（3ヶ月以上1年以内）または超短期（3ヶ月未満）の留学を対象とした奨学金に応募が可能です。

東京大学を通じて応募するプログラムに参加する場合

交換留学や3ヶ月未満の留学プログラムなど、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体等からの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件（成績・家計基準等）や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。

さらに、夏季短期留学については「奨学金付き夏季短期留学プログラム」として奨学金の支給を前提としたプログラム参加者募集を行っており（p.18参照）、海外有力大学の各種プログラムへ東京大学からの奨学金を得て参加することが可能となっています。

学位取得のため留学する場合

例えば2年間にわたり修士の学位を取得するために留学する場合などは、日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（大学院学位取得型）ほか様々な外部団体が公募している奨学金に応募できます。

奨学金の探し方

東京大学および外部団体からの主な奨学金の公募情報は、東京大学Go Globalウェブサイト（p.34参照）にて随時更新しています。期間・種類別に一覧で掲載していますので自分の留学・海外活動の内容と照らし合わせて探してみましょう。

奨学金の応募締切は留学開始の半年ほど前に設定されていることがほとんどです。留学や海外活動を考え始めたら、早めに奨学金についても情報収集すると良いでしょう。

また、「他奨学金の併給を認めない」とする奨学金もあるので、併願する際は十分注意してください。

官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～

●趣旨

本制度は、海外での「異文化体験」や「実践活動」を焦点にした留学を推奨することにより、学生時代により多様な経験と、自ら考え行動できるような体験の機会を提供します。そのため、諸外国の大学等といった教育機関での留学だけでなく、学生が自ら定めた明確な目的と意欲的な目標に基づき立案した実践活動の含まれる留学計画を支援することで、個性あふれる多様な派遣留学生のネットワークを形成し、グローバルに活躍できる力の育成と自らの経験を新しい留学文化の醸成に還元してもらうことを目的としています。

●概要

本制度は、我が国の大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）に在籍する日本人学生等に対し、諸外国への留学に必要な経費の一部を奨学金等として支給するとともに、留学経験の質を高めるため、留学の前後に行う研修の提供、及び留学後の継続的な学習や交流の場としての派遣留学生のネットワークの提供を行います。

●支援の対象

支援の対象とする留学の内容（申請コース）は、以下のとおりです。

①理系、複合・融合系人材コース
②新興国コース
③世界トップレベル大学等コース
④多様性人材コース
⑤地域人材コース

●支援の内容（概要）

1）奨学金月額：12万円～16万円（留学先の地域等により異なる）
2）留学準備金：15万円～25万円（留学先の地域等により異なる）
3）授業料：留学先機関における授業料相当額（学費・登録料）
　①1年以内の留学 上限300,000円
　②1年を超える留学 上限600,000円（13か月以上）

※支援内容は変更になる場合があります。

主な海外留学等奨学金一覧

注）・支援内容は変更になる場合があるので、最新情報は東京大学Go Globalウェブサイトを確認すること。
・※1は東京大学独自の奨学金。
・※2は支援期間が1ヶ月～2年の奨学金のため、以下の3ヶ月～1年以上と3ヶ月未満の両欄に掲載している。
・申請先欄が所属部局となっている奨学金は、東京大学による推薦や取りまとめが必要とされるもの。申請方法や締切については各自所属部局窓口へ問い合わせること。
・諸外国の政府または政府関係団体による、その国/地域の大学などへ留学する日本人を対象にした奨学金制度については日本学生支援機構のウェブサイトを参照のこと。
・下記の他、特定の地域在住者対象の奨学金等もあるので、東京大学Go Globalウェブサイトを確認すること。

3ヶ月～1年以上・学位取得を目的としない留学が対象の奨学金（交換留学・Visiting student programなど）

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
※1東京大学海外派遣奨学事業　短期（3ヶ月以上1年以内）海外留学等奨学金	3ヶ月～1年	月額6万円～10万円	所属部局
※2官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～	1ヶ月～2年	月額12万円～16万円、留学準備金15～25万円、学費等	所属部局
（公財）KDDI財団　日本人留学生助成プログラム	1年～2年	月額20万円	所属部局
（公財）経団連国際教育交流財団　産業リーダー人材育成奨学金奨学生	1年または2年	学費、生活費等として年間450万円を一律支給	所属部局
（公財）経団連国際教育交流財団　日本人大学院生奨学生	1年または2年	学費、生活費等として年間350万円を一律支給	所属部局
公益信託ヤマハ発動機国際友好基金 海外派遣日本人奨学生	1年以内	月額10万円	所属部局
（公財）佐藤陽国際奨学財団　派遣留学奨学生	6ヶ月～1年	月額8万円、渡航費25万円、交換留学一時金10万円	所属部局
（公財）業務スーパージャパンドリーム財団　派遣留学奨学生	1年以内	月額15万円	所属部局
TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム	1年	150万円	所属部局
（公財）阪和育英会 海外留学奨学生	1年	月額7万円、留学準備金15万円	所属部局
（公財）日本国際教育支援協会　学研災グローバル人材育成奨学金	3ヶ月～1年	月額10万円、往復渡航費	所属部局
百賢亞洲研究院日本人学生交換留学奨学金	1年	年額12,500米ドル（中国・香港・台湾・韓国の指定大学への留学）	所属部局
（公財）経団連国際教育交流財団 経団連グローバル人材育成スカラーシップ奨学生	8ヶ月以上1年未満 理工系は6ヵ月以上1年未満	100万円	直接応募
（独）日本学生支援機構第一種奨学金（海外協定派遣対象）〈無利子貸与〉	海外留学支援制度の支援期間と同じ期間	月額3万円～12.2万円・日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）採用者対象	本部奨学厚生課
（独）日本学生支援機構第二種奨学金（短期留学）〈有利子貸与〉	3ヶ月～1年	月額3万円～15万円	本部奨学厚生課
Friends of UTokyo, Inc. 米国伊藤財団-FUTI奨学金	6ヶ月以上	学費、滞在費等 実情に合わせて幅広く支給	直接応募

3ヶ月未満の留学への奨学金

奨学金・プログラム名	期間	金額・対象	申請先
※1東京大学海外派遣奨学事業　超短期（3ヶ月未満）海外留学等奨学金	3ヶ月未満	月額6万円～10万円	所属部局
※2官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～	1ヶ月～2年	月額12万円～16万円、留学準備金15～25万円、学費等	所属部局
Friends of UTokyo, Inc. 米国の大学での夏季プログラムに参加する日本学生への奨学金	夏季の数週間	約3,000米ドル　アメリカの大学での夏季プログラム等	直接応募

学位取得を目的とした大学院留学が対象の奨学金

奨学金・プログラム名	期間	金額・対象	申請先
（公財）吉田育英会　日本人派遣留学プログラム	2年以内（審査のうえ1年以内の延長あり）	学校納付金合計250万円以内、生活滞在費月額20万円、扶養補助（該当者のみ）、往復渡航費	所属部局
（公財）竹中育英会　海外留学奨学生	修士2年以内 博士5年以内	大学納付金250万円以内、滞在費・渡航費等年額200万円以内	所属部局
（独）日本学生支援機構　海外留学支援制度（大学院学位取得型） （大学とりまとめ応募）	修士2年以内 博士原則3年以内	月額8.9万円～14.8万円、授業料（年間上限250万円）	所属部局
（公財）平和中島財団　日本人留学生奨学生	2年以内	月額15万円～20万円、往復渡航費	直接応募
（公財）中島記念国際交流財団　日本人海外留学奨学生	修士課程：最長2年 博士課程：最長5年	奨学金月額20万円、往復渡航費、支度金20万円、 授業料（留学当初の2年間、年間300万円以内）	直接応募
（公財）伊藤国際教育交流財団　日本人奨学生	原則2年以内	生活費月額1,500～2,000米ドル、学費（年間300万円以内）、 往復旅費	直接応募
（公財）二十一世紀文化学術財団　海外留学助成金	原則2年以内	授業料2年分、研究活動費360万円　博士課程進学予定者対象	直接応募
（公財）本庄国際奨学財団　海外留学日本人大学院生奨学金	1～5年（学位取得までの最短年限）	月額15万円～20万円	直接応募
日米教育委員会　フルブライト奨学生　大学院留学プログラム	原則1年	往復渡航費、生活費、授業料等、基本的に全額支給 アメリカ留学	直接応募
オーストラリア政府奨学金　エンデバー大学院奨学金	修士2年以内 博士4年以内	140,500豪ドル～272,500豪ドル　オーストラリア留学	直接応募
フランス政府給費留学生	10ヶ月～1年	滞在費月額615～1,704ユーロ、社会保険料等　フランス留学	直接応募
（独）日本学生支援機構第一種奨学金（海外大学院学位取得型対象） 〈無利子貸与〉	海外留学支援制度の支援期間と同じ期間	月額5万円～12.2万円・日本学生支援機構海外留学支援制度（大学院学位取得型）採用者対象	本部奨学厚生課
（独）日本学生支援機構第二種奨学金（海外）〈有利子貸与〉	学位取得の標準修業年限以内	月額5万円～15万円	本部奨学厚生課

特集コラム:
Go Globalにチャレンジする東大生に社会が期待しています!

グローバルに活躍する人材の輩出を目指し、学生の留学・海外活動を推進する東京大学の取組みには、卒業生をはじめとする社会から広く賛同を頂いています。そうした方々からの貴重なご寄附による奨学金も増えています。ここでは、支援者からのメッセージとともに、寄附奨学金プロジェクトの先輩奨学生からの声も合わせて紹介します。

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム

支援者からのメッセージ

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラムは、株式会社ゼンショーホールディングスからのご寄附にもとづき、日本と中国の将来を担う人材を育成するため、東京大学が中国の大学と行う学生交流の教育プログラムです。中国を代表する大学のひとつである南京大学と連携し、リベラルアーツ教育を通して、双方の学生がともに考え、ともに啓発する中で信頼関係を育み、豊かな人間性を備えた知中派・知日派となることを目指します。本プログラムは①東大×南大共同フィールドワーク in 南京(3月)、②サマースクール in 南京(8月)、③東大×南大共同フィールドワーク in 東京(11月)などから構成されており、毎年①、②では各20名の学生を南京大学に派遣、③では南京大学より10名の学生を本学に迎え入れています。(p.26参照)

日中の未来を拓く知中派・知日派を

小川 賢太郎氏
株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長 兼 社長

今から400年前、世界人口は5億人余、その60%はアジアに住んでいました。GDPの重心もアジアにありました。ところが1601年、世界最初の株式会社といわれるイギリス東インド会社(EIC)の設立と、翌1602年のオランダ東インド会社(VOC)の設立を境に、世界構造が急激に変化していきます。アジアの富のヨーロッパへの移動、本格的蓄積が始まり、これがヨーロッパにおけるその後の技術革新、産業革命へとつながり世界はヨーロッパによる支配の時代へと移行します。1585年3万人であった、アムステルダムの人口は1622年には3.5倍の10万5千人へと急増します。

今、世界の構造は400年ぶりの大転換期を迎えています。世界人口に占めるアジアの比率は再び60%を超え、GDPの重心も急速にアジアに移動しつつあります。

このような歴史の流れを見ると、アジア地域の安定的発展と世界全体の平和的発展のため、日中両国の果たすべき役割は大変大きいのではないでしょうか。そしてそれを具現化していくには、両国において幅広い知識をもとに物事を大局的・総合的に見て、判断し、行動する人財が不可欠であります。

南京大学におけるリベラルアーツのプログラムは東京大学の全面的な支援のもと、両国の歴史・文化・技術について深い理解を持った人財の育成を長期的視点で進めており、株式会社ゼンショーホールディングスも物心両面における全面的な支援をさせていただいております。

このプログラムが、日中両国について深い理解を持つ高度人財を継続的に育て、日本と中国、そしてアジアと世界の安定的発展に資することを期待しております。

参加学生からの声

磯 尚太郎
教養学部文科三類 2年(当時)

私は「ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム」を活用して2016年春に南京大学フィールドワーク研修、夏に中国語サマースクールに参加したほか、2015年と2016年に東京で行われた南京大生とのフィールドワークにも参加しました。南京のフィールドワークではたっぷり時間をかけて町の奥底に潜っていくことで、普通の国際研修や観光ではなかなか見られないような南京の一面を垣間見ることができました。また東京のプログラムではフィールドワーカーの視点で、また中国の学生とともに町を歩くことで、普段暮らす町が異化される体験を味わうことができました。南京と東京、二つの町での活動を通して、町やそこでの人の営みの違いを肌で感じられたと思います。サマースクールでは中国語の授業のみならず、南京市内の様々な歴史遺産や大企業、また揚州、無錫、蘇州等他の都市の訪問もあり、江南の美しい文化に存分に浸ることができました。また、ここでも南京大学の学生との交流の機会がたくさんありました。これらのプログラムで出会った南京大生とは濃密な交流をすることができ、彼らとは今でも連絡を取り合う仲です。この素晴らしい出会いこそ、これらの活動で得た一番の収穫だと思っています。プログラムを寄附していただいた株式会社ゼンショーホールディングスに対し深く感謝の意を表します。

奨学金寄附者からのメッセージ

知恵の創造に終わりない。
そのひとつのキーワードが、「Go Global!」

長島 雅則氏
株式会社インフォマティクス 取締役会長

日本が高度経済成長に向かってひた進んでいた時代、これから伸びゆく分野を専門に選ぼうと考えていた私は建築学科へ進学しました。ちょうど建築設計にコンピュータを利用するCADが世に出た頃で、このシステムは必ず建築の仕事を変えると確信し、修士の時にコンピュータの先進国であるアメリカにあるマサチューセッツ工科大学(MIT)への留学を決意しました。1974年の渡米の日、研究室の先輩や同僚達が大挙して見送りに来てくれたことがとても嬉しかったですね。インターネットのない時代、渡米してからも情報の入手が困難で苦労しましたが、ニコラス・ネグロポンテ教授(後にMITメディアラボを創設)に出会い、教授の下でCADの研究と論文執筆に専念できました。そして、そこでの研究が私の起業への端緒ともなりました。

当時は欧米の方が進んでいた学問分野がたくさんあったように思いますが、現在は日本が先端を走る研究分野もありますし、インターネットの進化によって世界を結ぶ情報伝達インフラが整った今、外に出て学ぶ意味と意義は当時と比べて薄まったのかもしれません。ただ島国の日本はもともと型にはまりやすい同質社会。外に出たがらない人が増えていくと、型破りのイノベーターが生まれにくい国になります。私はそこに危機感を覚えるのです。

海外での異文化で感じる「!?」に対処する日々は、自ら考え答えを導き出すための貴重な訓練となりました。本当に得難い経験をさせてもらったと思っています。しかし、そもそも海外に向かう志向の種を育んでくれたのは、東大で学んだ6年間であり、先生や学友たちとの対話でした。

そんな東大への恩返しの気持ちで寄附をさせていただきました。その寄附金を原資とし「長島雅則奨学基金」を設立していただき、東大生の海外派遣と留学生を支援しています。すでに6期の奨学生を輩出し、これまで海外留学等をする61名の学生へ奨学金が支給されています(※外国人留学生には別途62名に支給)。奨学生たちと交流できる機会に毎年参加していますが、皆とても元気だし、いい目をしている。これからもそんな学生を増やすための一助となれば嬉しいですね。

どんなことでもいい、まずは「これをやりたい!」という興味の種を見つけること。そして、その本質を知りたい、見極めたいという好奇心を持つことが大事です。心から知りたいものが見つかれば、そのヒントが国内にあるのであれ海外にあるのであれ、前を向いてがむしゃらに進んでいけばいい。本質や真理に近づくための、知恵の創造に終わりはありません。そのひとつのキーワードが、「Go Global!」だと思うのです。

※インタビュー全文はこちらで読めます。
東京大学基金ホームページ
http://utf.u-tokyo.ac.jp/interview/15.html

東京大学では本ページで紹介したプロジェクトのほか、東京大学基金のもとに「Go Global奨学基金」を立ち上げ、卒業生や企業へ支援のお願いをしています。本基金の趣旨にご賛同頂いた多くの方々から多大なご寄附を頂き、東大生のGo Globalを支えて頂いています。

アメリカ留学の強い味方!"FUTI"(Friends of UTokyo, Inc.)の奨学金

FUTI(Friends of UTokyo, Inc.:東大友の会)は、東京大学の国際化を支援するために卒業生を中心に設立された、アメリカニューヨーク州登録のNPO団体です。プリンストン・プラズマ物理研究所の栄誉研究員である山田雅章理事長(昭和41年工学部卒)をはじめとする理事会の役員や諮問委員が、卒業生や企業に寄附を呼びかけ、集まった寄附をもとに奨学金給付や研究助成を行っています。

FUTIの奨学金は、2つの柱から成っています。1つは、アメリカへ夏季に留学する学生を対象とする奨学金です。2016年度には6名がこの奨学金を受給し、アメリカの大学でのサマーコースや語学研修コースに参加しました。奨学生は、「留学で得た友人は、私の世界観、知的好奇心、そして将来設計に素晴らしい影響を与えてくれました」といった感想を寄せています。

もう1つは、2016年度から支給が開始された「米国伊藤財団ーFUTI奨学金」です。この奨学金は、伊藤雅俊氏(株式会社セブン&アイ・ホールディングス名誉会長)が前途有為な学生を支援するために設立した米国伊藤財団からの支援を受けてスタートしたもので、アメリカへの1セメスター(2クォーター)以上の中長期留学を奨学金給付の対象としています。2016年度には9名がこの奨学金を受給し、将来を切り拓くための留学に挑戦しています。(p.41参照)

奨学金の選考は、学業成績、エッセイ、推薦状などに基づいて行われますが、それに加えて、部活動、ボランティア活動など、大学の正課以外でリーダーシップを発揮してきた東大生の応募を期待しています。(詳細はFUTIのホームページのFAQを参照)

FUTIのネットワークは、奨学金の給付以外の面でも皆さんの留学生活のサポートになるでしょう。アメリカへの留学を考えている方は、ぜひ一度ホームページをご覧ください。
http://www.todaitomonokai.org/

UC Berkeleyでのサマーコースの様子
留学レポートはFUTIのホームページでご覧いただけます

13. 安全と危機管理

海外では、不慣れな場所で、どこにどのような危険があるのかが十分に把握できないこともあるため、交通事故・窃盗・強盗・詐欺など、様々な被害に遭う可能性が高くなります。危険を感じる状況等をできるだけ避け、常に危険等を予測してから行動するよう心がけてください。

学生が海外渡航する機会が増えている現状、また、今後も増えることが予想されることを受け、東京大学の学生及び教職員のための『海外渡航危機管理ガイドブック』を作成しています。海外に渡航する学生は必ず本ガイドブックを熟読し、海外でのリスクについて事前に知り、十分に準備するようにしてください。

『海外渡航危機管理ガイドブック』
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/voyage/index.html

保険への加入

海外渡航中の保険については、必ず出発前に出発から帰国まで期間をカバーする海外旅行保険・留学保険等に加入してください。プログラムによっては、公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に加入することが参加の条件となります。（国際本部担当のプログラムについてはこれに該当します）

また、留学先大学等に指定する保険に加入することを求められた場合は、併せて保険に加入してください。

※日本の海外旅行保険・留学保険等は出国後には加入できないため注意すること。

海外安全危機管理サービス「OSSMA, Overseas Student Safety Management Assistance（オスマ）」

OSSMAは、海外滞在中に困ったことが発生した際に24時間365日・日本語・英語により適切なサポートを提供するサービスです。サービスの内容は、病気や怪我の電話相談、安否確認、ご家族渡航サポート等となっており、東京大学では、海外に渡航する学生向けに試行導入しています。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/res03/ossma.html

所属部局での届け出

留学等により海外渡航する際には、渡航目的により「留学許可願」、「海外渡航届」、「休学願」等の提出が必要になります。所属学部・研究科等の担当部署に確認し、必要な手続きを行ってください。

健康管理と安全管理に関する事前準備

『海外渡航危機管理ガイドブック』を参考に、海外において安全、快適に研究・学習等を行っていくうえで欠かせない「健康管理」と「安全管理」の両面から、渡航前の危機回避対策を必ず行ってください。（健康診断、歯科検診、常備薬の準備、予防（ワクチン）接種、渡航先国に関する情報の事前収集、緊急対応リストの携行など）

なお、東京大学の保健センターでは、渡航前医療相談を実施しています。
http://www.hc.u-tokyo.ac.jp/受診のご案内/内科/トラベルクリニック/

日本大使館・領事館への「在留届」の提出

海外に3ヶ月以上滞在する場合は、必ず、最寄りの日本大使館・領事館に「在留届」を提出してください。（旅券法16条により義務付けられています。インターネットによる提出も可能です。）万一、海外で事件・事故や思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本国大使館や総領事館はこの「在留届」をもとに日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護します。※転居・帰国の際にも必ず届け出ること。

また、外務省は、3ヶ月未満の滞在を対象に、2014年7月以降「たびレジ」システムを導入しました。同省の専用サイトに必要事項（旅行日程・滞在先・連絡先）を入力することにより、滞在先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メール、あるいは、いざという時の緊急連絡等の受け取りが可能です。東京大学は、この登録を強く推奨します。

外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/index.html

海外渡航中の報告・連絡・相談

海外渡航中、何か問題が生じた場合や相談事があるような場合、また緊急事態等が発生した場合は、速やかにプログラムの担当者や東京大学の担当者に報告・連絡・相談してください。

また、現地で天災、新型インフルエンザ等の感染症、テロ等が発生した場合は、たとえ自分には何も被害がなくても、安否について速やかに東京大学の担当者に連絡してください。なお、家族にも定期的に連絡を取るようにしてください。

その他

海外でも東京大学の学生であることを常に自覚し、行動や振る舞いには十分気をつけましょう。

その他、プログラムの担当者、本学所属学部・研究科、指導教員等の指示に従い、安全と危機管理に十分注意してください。

14. 留学と就職活動

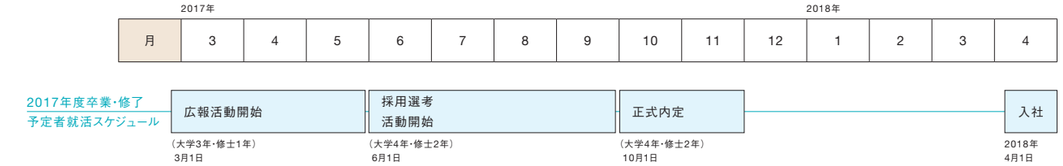
留学を考える際に、就職活動のことが気になる学生も多いかと思います。留学経験があるということだけで就職活動で高く評価される時代ではありませんが、「留学を就職活動にプラスに活かす」ことはもちろんできます。留学は自分を見つめ直すよい機会でもあります。帰国後就職活動であわてないために、参考にしてください。

就職活動のスケジュールはどうなるの？

2018年（2017年度）以降に卒業・修了となる学生の就職活動時期は下記の通りです。（下記の図参照）

会社説明会などが解禁となり企業の採用情報が公開となるのは学部3年（修士1年）の3月で、2016年度と変わりありません。面接などの選考開始は学部4年（修士2年）の6月からとなり、エントリーシートやWebテスト選考は6月前から実施可能となっています。

外資系やベンチャー企業など独自のスケジュールで採用選考を行う企業もありますので注意が必要です。企業の採用スケジュールとともに、留学先や留学・卒業の時期などそれぞれの事情にあわせて、ご自身の就職活動を考えてみましょう。



留学をプラスに…？

何を目的として留学するのでしょうか。短期間の語学留学、単位取得の交換留学、学位取得を目的とした留学…。留学の目的を達成することは言うまでもありませんが、何回も経験出来ることではありませんので、留学生活を大切にして、友達を作り、毎日を楽しみ、日本では出来ないことをたくさん経験してきてください。

でも「楽しかった」だけで終わらせないでください。そこから学んだこと、考えたこと、その結果、どう行動に移したかなどを書きとめて成長していく自分の記録を残してみましょう。その中で、やりたいことが見つけられるかもしれません。やりたいことにたどり着かなくとも、留学前と留学後でどのように成長したかを表現することで、就職活動に活かすことができるでしょう。留学経験がある場合、企業から「なぜ留学したのか、留学を通じて何を得たか」は必ずといっていいほど聞かれる質問です。留学中もこの問いを時々意識することで結果は変わってくるでしょう。

留学中の就職活動はどうなるの？

まずは、就職活動に関する情報収集をしましょう。

海外留学を経験した学生向けの就職情報サイトも充実しています。資料請求もサイトからできるので、必要にあわせて登録をしておきましょう。

多くの企業がWebサイト上に採用情報を公開しています。海外にいながらエントリーはもちろん、選考まで進める企業もありますし、場合によっては留学中の状況を考慮して選考してくれる企業もあります。行きたい企業が見つかったらコンタクトを取ってみてください。また、採用時期にこだわらず、通年で採用している企業も増えてきています。いずれにせよ、年度によって企業の状況は変わりますので、先輩や友達の話を鵜呑みにせず、かならず企業の情報は自分で確認してください。

日英バイリンガルのための就職イベント（キャリアフォーラム）もボストン、ロンドン、ロサンゼルス、シドニー、ニューヨークで開催されています。日本企業も多数参加していますので、留学先によっては参考にしてください。

留学前に大学の窓口を利用しましょう

大学の留学フェアを利用して先輩や留学担当の方などから話をたくさん聞き、より多くの情報を収集しましょう。また、本郷のキャリアサポート室では就職活動のスケジュールをはじめ、留学か進学か迷ったときや、企業分析や自己理解などの相談に専門のキャリアアドバイザーが個別にお応えします。先輩の進路情報もありますので、利用してください。

キャリア相談は予約優先ですので、キャリアサポート室のウェブサイトからお申し込みください。

東京大学　キャリアサポート室
www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/

15. よくある質問

Q. 留学を希望する場合、いつ頃から準備を始めればよいですか?

【全学交換留学】
　全学交換留学の場合、およそ留学の1年前に募集が行われますので、その時期に応募ができるよう、早めに語学学習や語学能力試験の受験を進めておきましょう(参照:10ページ、34ページ)。
【サマープログラム等短期留学】
　国際本部が担当する夏季短期留学の場合、その年の1～2月に募集が行われるプログラムが最も多いので、その時期に応募ができるよう、早めに語学学習や語学能力試験の受験を進めておきましょう(参照:18ページ)。個人で応募するプログラムも、早いものでは2月～3月に応募が締め切られるものもありますが、中には6月ごろまで申し込み可能なものもあります(参照:22ページ)。

Q.前期課程の学生も全学交換留学に参加できますか?

　できます。但し、前期課程の科目の履修計画に関する留意点や、外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず教務課前期課程係(PEAK生は国際化推進係)で事前に説明を受けるようにしてください。

Q.1学期～1年の間留学しても4年間で学部を卒業できますか?

　交換留学の場合、機関や時期、単位取得や単位認定の状況によっては、4年で卒業が可能な場合もありますが、1年間の留学だと留年が必要となるケースも多くあります。所属学部に確認の上、計画的に授業履修や留学の準備を行ってください。ただし、単位の取り扱いは学部ごとに異なりますので、必ず交換留学の計画段階で所属学部に確認してください(参照:34、38～39ページ)。

Q.現在休学しているのですが、全学交換留学に応募できますか?

　留学時に休学から復帰していれば応募は可能ですが、必ず各学部・研究科の担当部署に確認をして申請してください。

Q.留学に行く場合、費用はどのくらい掛かりますか?

【交換留学】
　交換留学の場合、日本で生活するのとあまり変わらない程度の費用で留学することができます。渡航費や生活費などは必要ですが、東京大学に授業料を納めていれば、留学先での授業料は不要となるためです。交換留学の場合、協定校の寮が利用できる場合が多く、奨学金制度も充実していますので、安い費用で留学することも可能です(参照:36ページ)。
【サマープログラム等短期留学】
　費用はプログラムによって大きく異なります。ほぼ無料で参加できるものから、数十万円のプログラムまで様々ですので、よく調べ、予算に応じて参加プログラムを検討してください(参照:18、22ページ)。

Q.全学交換留学の協定校は、今後増えますか?

　全学交換留学で応募可能な協定校は、年々増加しており、今後も増やせるよう交渉を行っています。

Q.全学交換留学の学内選考はどのように行われるのでしょうか。

　全学交換留学の派遣候補者は、各学部・研究科を通じた申請を経て学業成績・語学能力・申請書の記述内容・面接等により、国際本部にて総合的に選考審査を行います。(2016年度現在)

Q.各プログラムの応募の倍率はどのくらいですか?

　Go Globalウェブサイトの「留学の基礎知識」→「統計資料」のページで、応募状況を公開していますので、そちらで確認できます。人気が集中し倍率が高くなる留学先もありますので、併願ができる場合は複数の留学先に併願することをおすすめします。

Q.現在申し込もうと考えているプログラムの詳細や、過去の参加者の経験を知りたいのですが。

　まずは留学先大学が作成しているプログラムのウェブサイトをよく読んでみてください。また、国際本部が担当するプログラムでは、Go Globalウェブサイトの「留学プログラム」→「留学体験記」のページに、過去の参加者による詳細な報告書を掲載していますので、そちらも確認しましょう。また、学内選考を通過した場合は、派遣前のオリエンテーションで過去の参加者と情報交換できる機会があります。

Q.Go Globalのウェブサイトには締切日や提出先が記載されていない場合がありますが、どこで確認できますか?

　東京大学では、多くのプログラムで、自分の所属している学部・研究科(東京大学では、学部・研究科のことを部局と呼びます)に応募書類を提出することになります。締切日や提出先は各部局ごとに異なりますので、Go Globalのウェブサイトには記載していません。各部局のウェブサイトや掲示板で確認するようにしてください(参照:48ページ)。

Q.英語に自信がなくても参加できる留学プログラムはありますか?

　語学を学ぶプログラムもありますので、Go Globalウェブサイトなどでよく調べてみてください。一口に留学といっても、プログラムごとに目的や内容・レベルは様々ですので、自分のイメージだけで判断せず、事前にプログラムをよく調べて、自分に適したプログラムに参加するようにしましょう。

Q.短期留学プログラムなどに参加したいのですが、東大の授業やテスト期間と時期が重なっている場合はどうなりますか?

　海外の大学は6月～7月が夏休みのところが多いため、その時期に開催されるプログラムも多くなっています。自分の授業・試験日程などを応募前に十分確認し、参加が可能なプログラムに応募してください。留学のために東大の授業や試験に出席できない場合の扱いについては、留学時に所属する学部や研究科等の判断によるところとなります。留学プログラム等への参加に際して、特別な配慮が行われるとは限りませんので、学部や研究科等の窓口で事前に十分確認し、納得したうえで参加申請を行ってください。

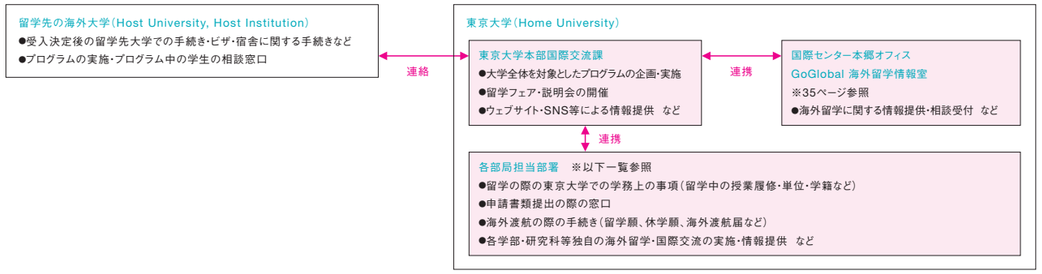
Q.留学について相談したいのですが、どこで相談に乗ってもらえますか?

　現在募集中のプログラムに関する具体的なことについては、所属している学部・研究科の担当部署や、募集要項に記載されている問い合わせ先に確認するようにしましょう。
その他、留学に関する全体的な質問・一般的な質問・相談などは本郷キャンパスの海外留学情報室で受け付けています(参照:48ページ)。
また、特定の学問分野の留学事情などについては、所属している学部・研究科の担当部署や、指導教員、先輩などに相談してみるのもよいでしょう。

16. 東京大学の留学・国際交流関係部署

東京大学の留学や国際交流に関する部署の体制は大まかに以下のようになっています。内容に応じて、担当部署に報告・連絡・相談などを行ってください。

本部担当留学プログラムの場合の例



各局担当部署一覧（海外留学・国際交流に関すること）

部局名	海外留学・国際交流に関する情報入手先	担当部署
法学部 法学政治学研究科	学部：http://www.j.u-tokyo.ac.jp/kyomu/contents/ryugaku.html 法学部掲示板 大学院（総合法政専攻）：http://www.j.u-tokyo.ac.jp/in/shs/contents/jugyo.html 大学院（法曹養成専攻）：http://www.j.u-tokyo.ac.jp/in/hys/contents/jugyo.html	学部：教務係、留学生担当 大学院：大学院係、留学生担当
医学部 医学系研究科	募集関係の情報：医学部掲示板・医学系研究科掲示板 学部・研究科の留学等情報：http://koryu.m.u-tokyo.ac.jp/homepage00.html	学部：教務係、国際交流室 大学院：大学院係、国際交流室
工学部 工学系研究科	募集関係の情報：学生・院生用情報ポータルサイト（学生専用・非公開） ※ポータルサイトURLは学部・大学院チームへお問い合わせください。 学部・研究科の交換留学等情報：http://www.oice.t.u-tokyo.ac.jp/index.html	国際交流チーム
文学部 人文社会系研究科	http://www.l.u-tokyo.ac.jp/student.html	学部：教務係（教務関係相談） 大学院係（手続き等に関すること） 大学院：大学院係
理学部 理学系研究科	掲示板（学務課および国際化推進室前） ウェブサイト（NEWS/お知らせ）：http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/current/	教務チーム（全学プログラムについて、単位認定・学籍等の学務関係について） 国際化推進室（理学部・理学系研究科プログラム等について）
農学部 農学生命科学研究科	http://www.a.u-tokyo.ac.jp/cstudents/index.html	学生支援チーム （教務に関すること：学部学生担当、大学院学生担当、 留学に関すること：学生生活担当）
経済学部 経済学研究科	http://www.gaia.e.u-tokyo.ac.jp/is/haken.html	学部：教務係、留学生・国際交流担当チーム 大学院：大学院係、留学生・国際交流担当チーム
教養学部 総合文化研究科	【学部・研究科共通】 http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp 国際交流支援係の掲示版 国際センター駒場オフィスの掲示板 【前期課程】http://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/index.html PEAK生向け：http://www.c.u-tokyo.ac.jp/eng_site/zenki/ 【後期課程】http://www.c.u-tokyo.ac.jp/fas/index.html PEAK生向け：http://www.c.u-tokyo.ac.jp/eng_site/fas/ 【総合文化研究科】 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/graduate/index.html GPEAK生向け：http://www.c.u-tokyo.ac.jp/eng_site/graduate/	【学部・研究科共通】国際センター駒場オフィス、グローバリゼーションオフィス、国際交流支援係 【前期課程】前期課程係（教務関係相談）、国際化推進係（PEAK教務関係相談） 【後期課程】後期課程係（教務関係相談）、国際化推進係（PEAK教務関係相談）、国際研究協力室 【総合文化研究科】総合文化大学院係（教務関係相談）、国際化推進係（GPEAK教務関係相談）、国際研究協力室
教育学部 教育学研究科	教育学部学生支援チームホームページ（学生専用・非公開） http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm	学生支援チーム学部担当・大学院担当（教務に関する相談）、学生支援チーム国際交流担当・国際交流室（留学全般に関する相談）
薬学部 薬学系研究科	薬学部掲示板・薬学系研究科掲示板 学部・研究科の留学等情報：http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~israr/ja/isar/study_abroad.html	国際交流室（留学全般に関する相談） 教務チーム（学務関係の相談）
数理科学研究科	【掲示板／国際交流室ホームページ】http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/kyoumu_e/liaison_e.html	数理科学教務係、国際交流室
新領域創成科学研究科	募集関係の情報：新領域創成科学研究科電子掲示板（学生専用・非公開） 研究科独自の留学等情報：http://www.ilo.k.u-tokyo.ac.jp/	教務係（単位認定・学籍等の学務関係） 国際交流室（部局間協定に基づく学生交流）
情報理工学系研究科	留学に関すること全般：http://www.i.u-tokyo.ac.jp/edu/inter_ex/oir/index.shtml 募集や奨学金等の情報：http://info.t.u-tokyo.ac.jp/k_suisin1/oice/haken.html	国際交流チーム
学際情報学府	学際情報学府ポータルサイト（学府学生専用）	学務係、留学生支援室
公共政策学教育部	募集・奨学金関係の情報：http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/student-bulletin-cat/study-abroad/ 公共政策学教育部独自の留学等情報： http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/international-exchange/double-degree-program/	公共政策大学院係（留学手続き・全学交換留学に関する事項） 国際交流担当（部局間協定に基づく学生交流）

［編集・発行］2017年4月1日／東京大学本部国際交流課
［E-mail］studyabroadfair.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp ［Web］http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/
［Facebook］https://www.facebook.com/todai.go.global ［Twitter］https://twitter.com/todai_global

本ガイドブックの情報は、編集時点での情報です。変更される場合がありますので、最新の情報はウェブサイト等で確認してください。